大正十一年八月十四日印刷納本　大正十一年八月十五日發行

光

大正十一年八月

第十四號

◇往き易き道……西田天香
◇或問或答……松下吉衛
◇神と偕に……三石勝五郎
◇一托鉢者の病床遺錄……故田中太一

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

◇ある夜の對話……きちゑ
◇天香さんと倉田さん……谷口雅春
◇一宿兩餐の客となる……松井生
◇返照錄……遠近兄姉

一燈園◇宣光社

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し、許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し、歸一の大願に参ぜん。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成ニ就大圓覺一

別願　將ニ來世界眞平和一

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し、報恩の爲に行乞せん。

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脫るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ、世諦を成ぜん。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生產業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せん。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天園、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば則ち一の遊戲三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとより言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。

天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、在園はその清規によりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを「假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

往き易き道

西田天香

私共一燈園同人廿數名の者は、先月末京都を出まして、名古屋から越後路に入るものと、信濃路に入るものと、二つに別れまして、私は金澤新潟を經て、御當地に寄せて戴いた譯でありますが、既に昨日頃長野市に入られた筈の名古屋でお別れした方々と、まだ逢ふまいと思つてゐましたのに、今日此會場(綿內小學校)の門前で、四名の方に出逢ひました。聞きますと此場所での托鉢を終られて、これから某製絲工場へ矢張托鉢させて貰ふ爲、二里半の路を徒歩で行かれるとの事でした。午の御飯はと聞きますと、まだ十一時半ですから戴かずに參りますとの事で御座いました。これを聞きまして、私は深い感慨に打たれ、只今自省と沈思の時を過しました。

私は時間の都合とやむを得ないとはいへ、講演會主催の方から廻していたゞいた自働車に乘つて參りましたが、今頃は四名の同人は、空腹を抱へて二里半の田舍道をトボトボと足駄を引きづつて行かれるかと思ひますと、もうこんな高い所に立つておしやべりをする事は出來ない氣持になりました。(此時師に悲痛極りなき聲色あり)然し皆樣が現今全世界が陷つて居る紛爭昏迷の狀態を深く考察せられ、そして又御自身內在の光に御目醒めくださるといふ期望に勵まされて、少しの時間話を聞いて戴く事と致します。今日參ります車の中で岡本郡長樣に御伺しました事ですが、敎育會の方なり青年の方々が私の樣な者から何を御求めになるのでせうか何か問題でも御座いますかと申しました處、郡長樣の御答には、いえ別にこれといふ問題もありませぬが、時々名士の方を御招ぎして、御話を伺ふ事になつてをりまして、天香さんの御話を是非共一度伺ひたいと今春來一同切望してをります樣な譯で、現代は色々な思潮があつて萬人歸趨を失つてをる形で御座いますから、これに對して、途を示して頂き旁々精神的物質的に、進步向上の助けと致したいといふ希望で御座います、といふ結構な御話で御座いました。此信州の地方は質實醇朴な氣風に充ちた土地で、私共の御話申上げる迄もない實は皆樣から御敎を願ひたい位なものですが、又翻つて考へますと、その皆樣の美質を以て私共を助けられ、業火に燃える人類の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

惱みを除き、世界を整理するといふいはゞ大火事の一方の消口を取つて戴く事が出來れば實に尊い有難い事であると考へます。然し私の話は話丈けではホントウに御了解を願ふ事は出來ません。それは六ヶ敷いからではなくてあまり卑近過ぎあまり平凡であり、又或部分は突飛に聞えるからであります。眞の説明者はたつた先き此處を出て行かれました托鉢者の四名で御座います。むしろ托鉢そのもので御座います。然しその托鉢と稱してをります仕事、たとへば掃除草刈そのものは、平凡な事でとても巧妙にやるとか、能率的に勞働するとかいふのでは無論ありませぬ。只その托鉢といふ事の精神、下座の態度から何物かを看取して貰ひたいのですが、これもホントの處は見物なされた丈では御判りにならない。攝州三田に心月院といふ大きな寺が御座いまして、そこの和尙さんが一燈園に一月許居られた事がありますが、一度寺へ御歸りになると周圍の事情、纒縛の力の爲め再び來られる事が出來ぬ、せめては自分一人はそこに一燈園を現じたいといふ望の下に、園に托鉢を頼んで來られまして、數名の同人が三田へ伺つた事が御座いました。私も寄せて貰ひまして相當な御人數の集りに話させて貰ひましたが、その方の紹介挨拶に此話は耳で聽く可きものでなくて、眼できくべきであると、托鉢が主である事を說かれましたが、翌日はその日の聽衆の方々が、私共同人が裸足で便所の掃除をするのを、立つて見物せられました。嚴冬の事で雪がチラヽヽ降つてをりましたが、その中を同人の方數名が薄着でやつて居られます。私も部屋で手焙りに當つてをりますと、手の掌は暖でも甲は冷い、腹は暖でも背は冷い、寒い事も忘れ、きたない事も忘れられる一番落着きのよい仕事、即ち毎日させて戴きたいと思ふ托鉢をしたいと思ひますと矢も楯も堪らず、庭へ下りましてバケツの中へ手を入れますと、初めて全身が暖くなりました。一所に托鉢して居ます鈴木さんといふ方、これは有名な實業家鈴木藤三郎氏の御子息で、以前某會社の重役であつた方ですが、その人が私に向つて

『天香さん、妙なものですな。』といはれます。

『あの御見物の中で囁く人がありました。一燈園の人は此寒いのによくやるなあ、と私は又此寒い中をよく見物なさるなあと思つてをります』とニコノ\してをられます。面白い話でこれ丈で今の世間と一燈園との間に横はる謎が解ける筈で御座います。私共のしてをります事は世間からはつまらぬ事氣狂い染みた事と見られますが、私共は相當の意義と價値があると思つてをりますし、又別に脈が狂つても居りませぬ。だから一寸でも知らうと思召せばやつて御覽になるより致方ないのです。それには鹿ヶ谷の一燈園へ參られるには及びません家族や財産を捨てるにも及びません、夫等をお光の預

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

り物として大事に取扱ひ、懺悔奉仕下座を體驗くだされればよろしいのです。それで初て御判りになるものが御座います。高い處から文明の建設、文化の興隆、人類の向上、と聲を大にし、哲理を說き、運動を起されても、その割に効果の上るものではないかと思ひます。他人の事を『やかましい默れ』といへば、やかましい人は一人殖える。默つて祈る事、詫びる心持で御奉公する事。人類を纏縛から解放する事は一人一人がさうするより外適當な方法はなからうと思ひます。かう申してをります私がこんな高い所からつまらぬ事を話させて貰つてをります事は明に矛盾です。話せといはれるから講演といふ苦しい托鉢をすると思ひ直しても、何所かに落付かないものがあります。知らず知らずわなにかゝつてゐるのぢやないかと省みられます。いつ迄もこんな事はしてゐられぬと思ひます。日常些細な事或は眞實らしく或は醇美らしく見える事の内にも恐ろしいわなが隱れてゐると思はなければなりませぬ。それは理智では中々見えませぬ光に照さなければ見えませぬ。生きようといふ努力、生存權の主張は眞實のものらしく見えます。近代の文化はかういふ主張と欲望によつて建設されたものだといひます。然るに此思潮の結論は文化の中心たる歐羅巴先進國に於て、貴い流血の代價によつてそのホンモノでないことの實際を示されました。國際會議によつて、軍備制限が決議されるや、各國は多大な經費を使つて出來し大艦巨船を故意に擊沈しなければならぬ樣な行詰りを生じました。敎育を振興すべしと云ひます。誠に結構な事で誰も異論は御座いませぬ。然し乍らその敎育の基調、及その方法に、考へるべき重大な問題は御座いませぬか。敎育の効果がどれ丈どの方向に現はれて居りますか。成程智識と技術とは進歩もしませうが眞の意味の文化、人類の平和と幸福にどれ丈の貢獻をいたしましたか。事實は反對の結果を示す事すらある樣に思はれます。私は自分の小供に、中等程度の學校敎育をも受けさせませぬ。出來なかつたからではありますが、兎に角殘忍な父であるといふ世評を蒙ります。然し子供は不幸だと思つてをりませぬ。私も穴勝氣の毒だとも思ひませぬ。歩む途が正しく、からだの持方がホントウならば、眞の智惠は內なる生命から湧き出ます。智識は光から授かります。噓の世界に於ける敎育や宗敎が與へる智惠と比べて、量に於て小くとも質に於て劣るものと思へませぬ。私は中學へも上らぬ無敎育の者で御座いますが、最高學府に敎育を受けた私の義弟が、或時汽車の中で私にトルストイの「我等何をなすべきか」の譯本を讀んで聞かせて吳れましたが、其內私にどうも合點の行かぬ事がありました。それを云ひました處、然しさう書いてあるのだからと義弟は申して居りましたが、後一年もたつてから、それが譯者の誤であつたといふ事がわかりました。哲人の思想宗敎の敎義はさう變るものでは御座いませぬ。水の泡を見ますと大小がありますが本來同じ水なのですから歸一すべきものであると思ひます。私にこんな事がわかりますのは敎育の力でも自分の能力でも御座いませぬ。全く光に照されて判るのでは御座います。又「父の家に住居

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

多し」と聖書に御座います。これを常識で考へ乃至神學で研究しますと、中々厄介で或は眞に判らぬ人が多いかも知れぬと思ひます。然し私は光の世界に於て此頃の住宅難が手もなく緩和されて父の家に住居たき實證を澤山見てをります。

敎育をうけさせねばならぬものだと思ひ詰めるのも一種の美しいわなかも知れませぬ。それに就てはこんな話が御座います。奈良女子高師で話をさせて貰つた事が御座いますが、その時控室から會場へ行かうとする時京都から長男が參りまして、痔瘻で入院中の次男が手術をうけました處、出血がとまらず、其儘にしておくと危い、又外科的に止め樣とすると破れた血管を探らねばならず、それには手間がいり安靜を妨げるので、これも恐ろしい、どちらの方法を取るべきかといふ醫師の相談を傳へたのでした。私もさすが一時は恩愛の情にためらひましたが御祈りにより心を定め、今せうとする講演は今日一日の御奉公、これをやめて歸るべきでない、と思つて長男にいひました。『どちらでも醫師の方に御任せします、病人には命がなければあなたの御淨土へ歸りなさい、今に私も行くから』と傳へまして、やがて講演を濟ませ直ぐに歸洛しましたが、其時同校の女敎師で、一人隨いて來た方がありました。病院へも一所に來られましたが、私は、病室のドアをあける時、もう死んだらうと思ひましたところ、まだ命はある樣です。思はず『まだ死になさらぬな』といひましたところ、ベツドに橫はつた次男はニコツと笑つてうなづきます。後で皆さんに聞きますと長男が歸りましてから熱も下り熟睡した爲め出血も止まつたのださうです。危險が去つてから次男に聞きますと、かう言ひます『天香さん！兄さんは兄さん丈の事がありますな、兄さんが奈良から歸つて私に死んでもよいぢやないか、死んでもよいぢやないか、と小聲でいはれましたが、其時私はハッと氣が付きました。今の先迄執着の爲に苦んでゐた醜い事を思ひまして、ホントに死んでもよいと思ひ直すと、非常に樂になつて、その儘寢ましたと申します。

從いて來た女敎師の方は、此の有樣を見ますと、次の樣な御話がありました。『實は私はどうしても分らぬ事がありますので從いて來た譯でしたが、もうはつきり分りましたから、歸つて一燈園に寄せて戴く準備をします。』といふ話。段々聞きますと、此の婦人には相思の男子が有つたのですが、向ふは金持の息で、その點で結婚が出來ない。悶々の情を抱いて暮してゐる內、或る他の男と知合になつた。その男は養子であつて、二人の子供も出來てをるが、どうも家庭が冷かで味氣なく月日を送つてをると言ふ境遇で、御互に結婚生活に對する失敗者といふ點から、慰め合ふ樣な間柄となり、遂に或る時その男子が婦人に向つて『若し私が今の家庭から、逃れ出たら、私と結婚してくれるか、それ迄待つてて吳れるか』この間を出した。その時その婦人は實に愼重な用意をして、『若しそれが極く自然のものであるならば、』と答へられたさう

その二人の自由戀愛者が、どちらも天香の問に對する答として[illegible]られます。それをその婦人が讀まれてハツとされたのです。そして考へ初めました。私の相手に言つた自然ならばといふその自然は、果して眞の意味の自然であらうか、或は自然らしく見える樣な、作爲を含んでゐないだらうか、妻を愛しようとする努力をも裏切つて自分及び周圍の事情が離婚迄運んだと云ふやうな自然といふものが豫想されるだらうかと、充分に檢覈して見た。然るにどうもその邊に對し、男の氣持も自分の氣持も、危いものがある。いけない、これは私の事を斷念させねばならぬ。然し突然にさういつたのでは或はその男が邪推を起して、却つて惡い結果を見ないにも限らぬ。とにかく一旦約束したものだから相當の責任がある。どうしたらば、自分の申出を正しく受入れてくれるだらうと、考へに考へたが到底これは淺墓な理智の示す方法ではいけない。自分に確かな信念をこしらへ純粹な心持で、向ふより外ないと決心し、さてこそ一燈園によつてさういふものを得たいが、私に一人の弟があり、その學資は私が女子高師に入學を許される時に、條件として、私が引き受けたものですから、弟が學校を出れば直樣園に上りたい。弟をも、學校をよさせて私と共に園に入れたいと云ふのは、私の考へですが、本人は教育を受けられぬ事を最大の不幸と思ふに相違ないから、弟をも道連れにするといふ事は忍びない。それで弟に對する私の義務を盡した後に萬事を整理したいと思つて、今度は兎に角心の準備として、御伴を願つたのですが、あなたの血を分けた御子息に對する態度殊に只今の嚴肅な光景、御子息の生死を超越した安心を示されまして、初めて私に信念ができました。もう大丈夫ですから歸つてその男子の方に手紙を出して私はすぐ一燈園の生活に入りたい、どうか御願します………といふ御話です。私は即坐に宜しい。學校を御止めなさい。一燈園に御出でなさい。そしてすぐその日から學校へ托鉢に行つて教育をして下さい。給料は光に捧げて下さい。と一燈園の當番の態度として申しまして、先方はこれを承諾され引き續いて奉仕されましたが、その後の御婦人の學生に對する態度なり何なり全く變つてしまひました。その御宅に娘さんを二人預つてゐられますが此人々が又非常に變つた。この事はその中の一人の娘さんの父なる、大阪日銀支店長結城氏の御話として私は間接に耳に入れました事です。只今の話は自分が自然だと思つてをる事の中にも恐ろしいわながあるといふ事と、理智では到底達し得られぬ境涯がある、その境涯は確な安住の世界であることを示したものです。尚一、二の例を擧げますと、或る青年が園に來られ、默々として托鉢して、或る時歸るといひ出されたので、色々聞いて見ました處、その人の答に私は神が見たい知りたいと思つて來ましたが、來るとだんだんその問題はどうでもよくなりました。そのどうでもよい所から神が見られた樣な氣が、し出しましたといふ話でした。即求めたいといふ智惠が邪魔をして求められぬのであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

道を求めて南山に至り道を忘れて南山を去る、といふ事があります。或る坊樣に悟りたい、と云ふた人がある。坊樣の曰くに、生死の業を離れるのが悟ぢや。その人追掛けて、その生死の業といふものを出して吳れ、坊樣の答に悟りたいと云ふのがその業ぢやとありました。

今の世は智識〳〵と追掛けて浮足になつてをりますが、或は圓周の上を走つてゐるのではありますまいか。ヤレ〳〵此處迄來たと思ふと、その時後を振り向いた人、その人は初めから走らずに、落着いて步いてゐた人に對面するのぢやありますまいか。走つた人は疲れ切つてゐます。落着いてゐた人は一步一步に大地をふんで健全に步いてゐます。單純へ立ち歸つて步き直して戴きたい。〇から出發して貰ひたい。誰もが權利々々と主張します。人間は生きる權利を持つてゐるともいへます。醇化された權利はその存在を認めても宜しい、が既に權利と口に出していひますと、その中にチヤンと危いものが這入つてゐる。至醇なものではない。皆一所に仲よくやらうぢやないかと、約束するのが共產主義或は社會主義のやうですが、これは一人約束を守らぬ惡人が出ると、根柢から崩れる。一燈園の「負ける生活」を靈的社會主義と名付ける人があります。或はさう云へるかも知れぬが、一燈園は『主義』ではありません。社會主義では殺氣があります爭鬪の氣分があります、その中から平和が生れ樣とは思はれませぬ。此頃一燈園に對し、經世家、學者、識者の階級から色々と御心配くださる。中々明晰な議論もあり、深い考察もありますが、要するに大部分は議論とし考察としての價値で、徹底的に知つてくださらぬ樣です。或は奴隷道德であるの、權力階級を覺醒せしむる力がないの、或は文化のよつて起る基因たる慾望を否定するの、文化に對する反逆者呪咀者であるのといふ非難もあります。皆的を外れてゐると思ひます。私はこれに對抗してこんな事を申すのではない。そうするのは既に爭です。私共は忍受の生活をします。別の世界に住みます。然し第三者の方に誤られない樣に、申上げる迄で、**實は世評は私自身に取つて毀譽何方とも何の意味も御座いませぬ。かやうな譯で、皆樣も智識を求め、思想を御練りになるのは誠に結構では御座いますが、尙その下に、人間の本質に潛在する光があり、人生の歸趨を示す可き力があるといふ事は、**御究明を願ひたいもので御座います。

さすれば將來此美はしい信州の地に不純を混へた文明の濤が押し寄せて參りませうとも、よいものとわるいもの、ほんとうのものとうそのものとを御見分けくださる事が出來て、此土地は昔乍らの醇朴雄勁の美質を失はずして、而かも眞の文化が建設される事と思ひます。さうしてその力を以て進んで他を善くする樣な生活が行はれるに相違ないと存じます。

永々とつまらぬ話を御辛抱くださいましてありがたう存じます。これで終りといたします。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

或問或答

松下吉衞

記者。一燈園生活の根本義とでもいふべきものについて御説明が願ひたいです。色々な評判を耳にしますし、此際あるがまゝに事實を知つて貰ふことは、あなた方としてもよくないことではありますまい。

M。ありがたう。何しろこんな建物に（京都鹿ヶ谷一燈園をさす）今のところ百四五十人からゐる始末で、お斷りしてもく〱入園希望者が殖える一方なものですから、ツイ本意ならずも修行上のお取扱が懇切を缺きがちになつたりしてその結果が、時に園の同人にあるまじき間違を仕出來す方もあるやうですが、これは私達幾分古くから園に關係を持つた者の不徳の罪をお詫びする外ありませんけれど、その爲に一燈園生活の根本精神まで禍されてはなりません。世間の浮説が如何あらうと辯解したいことはなく、又辯解してもしようのないこと位は存じても居りますが、お預りしてゐる大勢の息子さん娘さん方の親御さん達にあらぬ御心配をおかけしたり、道そのものゝ障りになるやうでしては默つて居るばかりが能でもありませんでせうし、存じてをる限りはお答いたしませう……

罪惡の自覺を基としての、淨土を地上に建設せんとするいのり！　これがまあ一燈園生活の根本精神といふべきものでせう。世間ではよく、便所掃除や、むさい仕事ばかりしてゐたとて何になると、お咎めのやうですが、自己の罪惡を痛感し、如何にもして懺悔の實を示したいと願じてゐるものにとりましては、かうして下座を行ずることが一番ふさはしいまでのことです。下座を行じてゐますと不思議に周圍までが調つてまゐります。これは選ばれた少數の人の事例でなく、下座奉仕の誰もが親しく體驗せられるところと考へられます。

記者。なるほど。では次に、同人方は一體何を信じ、どういふことに一番値打をお認めなのですか？

M『よくもわかりませんが、私達の教へられてゐる限りでは、東西古今の祖師開山聖賢方の説かれるところを、よく〱吟味いたしますと、種々異なつた相こそあれ、根本に一つの共通したいのりのあることが發見されます。このいのりとは外でもありません。皆倶成就大圓覺といふことですこの見地からながめますと、佛教も耶蘇教も乃至神道も皆等しなみに拝まれますので、既成宗教のどの一つにも偏らないと共に、別に新たに一宗派を形らうともいたしませんたゞかうして懺悔の奉仕にいそしんでゐますと、自分と一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

切他との同一感が、ひしと胸にやつてまゐります。私の貧弱な經驗から申しましても、たしか去年の秋のこと、覺えてゐます、そぼ／＼雨の降る日でしたが、一日の托鉢を終へて夜になつてから園へ歸るさ、あの機械文明の象徴ともいふべき電柱にさへ自己との同一性を實感して氣狂ひのやうでしたが「お丶兄弟よ！」と暗黑の中に雨にぬれてツクネンと立つてゐる電柱に我しらず手を觸れて呼びかけたことがあつたのを覺えてゐます。さういふとき、問題はすべてなくなつてゐるやうです、もうこのまゝでよいのです、善も惡も邪も正も美も醜もない、誰のことも、どんな惡人のことも、敵のことすらも、すなほに、許せる心地がいたします。こゝをしつかり握つて行きたいのです。そこに生活の價値を感ずるのです。

記者。今、あなたは「托鉢」といふことを仰有いましたがどういふ意味なのです？

M。禪僧の托鉢と、精神は同一でせう。御存知のごとく禪僧なら人の家の門へ立つて經を讀むのですが、一燈園では實生活に即して作務をさせて貰ふのです。そして菩提心を拜み出し、愛の精神を起して戴くのです。

記者。それで、園の同人はどうして食べていくのですか？

M。原則として菩提心の供養によるべきだと思ひます。

記者。も少しそこを具體的に御說明下さいませんか？

M。同人は、通常、因緣のある家に日々あがりまして何なり身に叶ふはたらきをさせて戴くのですが、世間の行き方とは正反對に、はたらきを絕對に價格にのぼさず、財物を私有せず、又爭はないのです。でも、さわりのないものなら——こちらに下さることによつて、あちらがへつたと感じたり儲けねばならぬと思つたりしないものなら、更にこちらに下さることによつて、あちらが生活のあやまりを正さうとするやうなものなら、禮拜して之を受けるには、いくらお受けしたとて差支ありますまい。かうした御供養をもつて虔まやかに暮させて貰ふこと、言ひ換へれば「許されて生きる」ことが一燈園生活の基調であるのです。

記者。もし御供養がないとすれば？

M。謙遜の態度をもつて身の不德を詫びつゝ食を乞ひます。

記者。では乞食ですね！

M。さうです。でも、不德ものながらいのりが私達にはある筈です。

記者。家族ぐるみ、一燈園の生活は出來るものでせうか？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

M。出來る筈だとは信じます。でも、一燈園といふ建物——道に志して自ら立つことの出來ない者の修行場——が無いとしますと、時により隨分犧牲の血を流させられることもあると覺悟せねばなりません。もと〳〵同人達は棄恩入無爲のものであるべきですから、かうした事が問題になつてはならないのでせうが、お互に弱い人間ですし、實際問題になりますと、たゞ〳〵になりがちなものです。で、助け合ひ補ひ合ひいのり合ふ必要が出て參ります。

記者。托鉢者の奉仕が資本家にわるく利用されることはないものでせうか？

M。それは隨分あることです。何しろ、このせちからい世の中に、半錢の報酬すら求めず身に叶ふかぎりのことを奉仕させて戴きたいと、へりくだつてでてゐるのが托鉢者ですから、利用しようと思へば、言葉巧みにもてなして日に三度の扶持代だけで勞働の搾取をいくらでもすることが出來ます。又托鉢者を種子に他の使用人を働かせて、自分は依然資本主義的精神を改めず、道に對して敬意を表することを知らない雇主も可なり澤山あるやうです。

しかし托鉢者のいのりさへ徹底的になつてゐますなら、資本家に乘ぜられる隙などはあり得ない筈ですし、利用されてゐる間は、どこかいのりに本當でないものが交つてあるのでせうから、托鉢者は自らを引きしめ〳〵して行つて供養の如きも觀音經に所謂「不肯受之」の態度をもつてお斷りすべきです。

記者。勞働者の間に懺悔奉仕の精神が植付けられると、安價なあきらめを勞資兩階級者に與へ、勞働運動の出鼻をへし折るやうなことになり、反つて社會改造の機運を不自然に抑制する結果になりはすまいか？ 人生々活に對する徹底した目的觀がなく、たゞ青年者の感激性に訴へて流汗行鍛錬を强ふる修養團の運動に鑑みて心配させられます。

M。懺悔奉仕といふことが、極淺薄に解釋されますと、あなたのお考は杞憂に止まるまいと私も實は衷心大いに懼れをなしてゐるものです、托鉢にいのりがこめてないなら、托鉢はたゞ型ばかりになり、立ちン坊が乞食と何も變つた點もなく、勞働者の地位を奪つて失業者を增加せしめ、資本家をして益暴威を振はしめることゝなりませう。こんなことでは、どうして此の二つない生涯を捧げ切る値打がどこにありませう？「金力」を絶對に否認する權威が私達の生活から失せるなら、其時、私達を待つものは生命そのものゝ敗墟の外、何物でもありますまい。やつぱり「神と財とには兼ね仕ふる能はず」でせうね。

記者。では、社會全體のものが皆一燈園生活者になつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

らどういたします？　治生産業が果して今日より以上にうまくやつていけませうか？

M。一燈園の生活に立てば、財物を私有する必要はなくなる道理ですが、若しさうなる前、その人に屬してをつた財物なり事業なりがあつたとするなら、何も「豚に眞珠を投げ與ふ」る要はないのですから、之を出來る丈、他の障りにならぬやう保管もしくは經營していくべきでせう。私達の間にもこれについての研究と經驗とがないではありません。一燈園に對して、かうした世務を扱ふ機關を假りに宣光社と名づけてをりますが、この方は中々關與する所が複雜であり、はつきり具體化する運びにはなつてをりませんけれど、研究としては一ト通りしまへてはあります。

それから、社會の皆が皆一燈園生活者になつてはこのお尋ねですが、お答するまでもなく、その曉には、「愛と自由との王國」が立ちどころに現前しませう。消費は虔まやかに行はれ、生産は能力の限り爲されますから、「地は裕」となるでせう。……でもこんな假定を含むだ空疎な閑談は後にして、現實の生活にふれた問題を具體的に取扱つていかうではありませんか。……こどもの敎育をどう取扱ふか一所不住の園生活者が病氣した時どうするか、結婚、戀愛の問題をどう見るかなど、御意見もうかゞひ、こちらからも申上げたい生きた問題がいくらもあるのですが、今日これから少し出て行かねばならぬ用事を控へてゐますので又の機會にゆづることにお願ひ申します。

一〇

神と偕に

三石勝五郎

働いて
小便にごろ
とろぐわを畑に投げたまゝ
谷に下りて蕗の葉で
汲む水の涼しさよ

「神と偕に働き
神と偕に遊ぶ」
と、綱島梁川氏が遺した文字は
曙一燈園の棟に刻まれてあり

崇高なる太平山には
天香師の建てられた
梁川大士碑永久に殘り
牛もう／＼と吠えて
とぶ雲にも
心あるか

自然はいつ見ても
若やかに、半年の雪の中から
われるやうになき出した
あの蟬の聲

苔むす大岩によつて
更に田ノ澤道場の初夏を見れば
鑛山に働く人は誰か
「餘所の金山　金しか掘らぬ
こゝじや心の玉を掘る」
と、天香さんの歌がこだました

—大正十一年六月三日、秋田縣下田ノ澤道場……

一托鉢者の病床遺録

故田中太一

編者より　田中兄は昨年初秋頃から同人になられ東京中心に托鉢をお始めでしたがその前から(大正十年三月頃?)呼吸器の病をお持ちであつたやうに想像されます。兄の日記によりますと、園に入つて間もなく青山學院に托鉢中、一夜不意に咯血なされたとあります。それは暴風雨のあつたイヤに壓迫感を感ずる重苦しい空氣に寢あぐんでゐた晩のとと日記には書かれてあります。結核患者と無一物の托鉢の生涯! この二つを結びつけて、兄は當時どんなにか切なく淋しい想に、寢られない幾夜を悶えなさつたことでありませう。以前法學を修められた影響とも見られますが、義務心の强い兄は、自分の病の他に傳染するのを慮つて、托鉢し回ることを遠慮され、一切をあげて天香師におまかせなすつた。當時、兄が主な托鉢先は、藤井悌様小林鐵太郎様、和辻哲郎様、細井工場等でありましたが、病弱の身にも拘らず、隨分よくやられたやうです。藤井樣のお宅には取分けお世話になつたらしく、長いこと腹膜の慢性症に惱まれながら死を超えたるもの丶平靜を握つてゐられる奥樣と、一塊の血痰に我を失つてオドオドする自分の惰ない姿とを見くらべて、ひどく打たれた記事が日記にあります。

天香師の惠み深いおはからひで、風暖い伊豆の山里竹麻村に療養がてら托鉢に行かれたのは十一月十日でした。そこでは初めのうち可なり平和な生活が續いたらしく

『土の香に親む伊豆の山畑、芋ほる鍬の音ののどかさ』
『托鉢や芋ほりながらお念佛』

など丶歌つてゐられます。でも病める身の托鉢生活は決して容易でなく、義務心の鋭敏な兄は不作不食を度を越えてまで勵まれた爲めか、年を越す頃には病勢が餘程進んでゐたやうに思はれます。其頃の日記を見ますと、周圍のうとんじ露骨な敬遠ぶりに對して人間らしい痛憤を隨分もらしてゐます。

京都一燈園に送られましたのは本年二月上旬。直ちに一燈園の托鉢先なる東寺の濟世病院(濟生病院とは違ひます)に入院。七月二十三日入寂。この遺錄はその間の手記であります。全部掲載することが出來れば一番よいのでせうが、かうした雜誌の性質として、勢ひある標準を立て丶抄錄の方法を選ばねばならず、潛越にもその任に當りました私の輕くない罪を筆者と讀者とにお詫び申します。臨終には、天香師はじめ看護に勤められた同人の婦人の誰彼、天香師を訪れて病院に居合せた同人の數人が侍りました。天香師が親しく兄の兩手を組み合せ、その上に御自身の片手をお丶きになつて靜かに稱名すれば、兄も唱和され、思ひ殘すことは何もないと、瞑目して靜かに死を待たれる態度は、私には人間ばなれがして見えました。凡そ死といふことに對して近來殊に無關心になつて來てゐる私も、かうして死の事實に面接しますと、又新たに考へさせられるものがないではありません。自分が今死ぬとして、自分の愛するものが目のあたり死んで行くとして、果して悔いがないかどうか、堪へきれるかどうか、ごまかしは此の場合一切用をなさない……私はもう一度死をみつめ直さなければなりません。……

天香師は『新歸心田太直居士』と改名をおくられました。病院の涅槃室で同人が通夜をつとめ、翌二十四日荼毘に附する前同人二十餘名によつてしんみりとした告別式が行はれました。『勿體ない……』『大往生で……』などとすぐ傍の廊下での私語が聞かれました。鳥部山の火葬場へは忙しい托鉢を控へてゐる同人は遠慮させて貰ひました。(松下生謹記合掌)

〇大正十一年二月七日　天香師の情にて京都東寺濟世病院に入院の手續を了す。此日午前十時鹿ヶ谷を出で、熊野前から電車にて七條大橋に下車す。實は七條大宮であるのに非常に息苦しい道を約三十丁位も歩いた。病院は割合によく分つた。小暮さんはもうとうに來てゐられて私を待つてゐて下すつた。それはそのはづ、十二時十分前であつた。入院が許可になると第三病室の別室に案内された。こゝにはやはり血を喀く人達がねてゐられる。別室はよかつたが掃除がまるで行屆いてをらぬ。不平ではない。天氣のよい日に自分でやれるだけやりたいのだ。

やがて午飯が惠まれた。園の綾部さんといふ方が親切にして下さいました。初午だそうで赤飯に魚の切味と云ふのだ。園の麥飯よりは美味とは思はれぬ、午頃から降り出した雨がます〳〵降り出して初入院の淋しさをます〳〵ふかゝらしめた。何にも思ひ煩ふまい。天香さんの言はれる通り本來壽命に長短はないんだから、喜べるだけ喜んで死んで行かう。藥も運ばれた、體溫も計られた。たしか三十七度八分であつた。白い布團をかけたベッドの上に今夜はねむる。

午後三時綾部來る。雜誌無我の愛をお借し下さる。中に『西田天香氏と僕』と云ふ武者小路氏の文をよむ。それは天香師の見方があやまつてゐると思はせられた。氏のいふが如き信仰を强ひたり教訓的に出たりする人では決してないのだ。自ら尊いと自覺して居られる氏にも探せば缺點はあるだらう。

〇二月八日　天香さんの旅行に立たれる日。

綾部さんが御飯を運んで下さつた。その後で園の同人の方がキャラメルと歎異鈔とを惠んで下さいました。朝飯がすむ頃だつた、看護婦さんが入つて來られた。熱計はもうすんだのにと思つてゐたら、私にいたゞいたと云ふので鷄卵を二つ與へられた。人情は冷かなものとのみ思うて居たのに……何とも云へない有りがたさを感じた。午前九時頃からキャラメルを口にして辭世をかくつもりで紙がないので繪はがき三枚かいた。一枚は靜夫君にかいた。すべてはつまり君のもとにやりたいと思つて居る。

正午いたゞいた卵をたべる。そして暫らくねむつた。今日も平和な日であるのを感謝す。午後二時半院長さんの診察。

午後三時看護婦さんの脈見、是れからかうした事がつゞくであらう。綾部さんが、天香さんがすべてを引きうけるから氣長に靜養するやうにと。感激なくしてきくことは出來なかつた。

昨日來の天氣も今日午後はれる。氣持も何となくさわや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

かである。
○二月九日　今朝もきまつたやうな事がなし終ると朝飯が待ち遠い。しかしユタンポの爲めか逆上して氣分甚だ悪し一つは天氣のどんよりとしてゐる爲めでもある。かうした病院生活が初められた私は淋しとは少しも思はぬ。最後はつまり何處かで見ることである。何の不安も感ぜない。私は心の中に沸々として常に佛心を起さして貰つてゐる。果敢い人生とは信仰なき人の嘆聲とこそ思ふ。東京の弟に端書だけは出しておくのがよくはあるまいか。何れにしても考へる餘地はない。
○二月二十一日　東寺の弘法大師の緣日で朝から天氣がよいので、大變な人出ときく。入院してから熱の高低が甚だしくて體も大變につかれたが、今日などは大いに氣分よくなつた。
　園の藤原さんが今夜此所を引揚げになるさうである。看護婦長さんが、ずぼん下を持つて來て下さつた。弟から端書が來た。
　今夜は別室の人が死亡された。
○二月二十三日　天氣曇氣苦しき日なり。午前中綾部樣鳥取に病者を送りて歸らる。一日彼の人なきは精神上に甚大の淋しさを覺ゆ。今その顏を見る、なつかしく且嬉し。氏又『心身革命』なる一本を與へらる。余之れを一氣に讀了す。而して世には樣々の不治の難症のあることを知る。要は心神の持ちやうによつて不治も治となり難症も平癒するにいたるは聖哲の實證された所余の此の一本をよみ大いに新元氣を得。
　午後カルシユムの注射、院長の回診。院長は余に靜座を大いにすゝめらる。丁度内的に血湧き立てる折なれば決行することに決心す。毎日便々と寢てとりとめもな(き)空想にふけることの愚なるを悟る。
　綾部さんより一圓供養していたゞく。その外はだぎを無理におかる。
　原さんと云ふ方より切手三枚供養受く。

無音之響序

浄海生

　此のノートを透石さんに供養して頂いたとき私はかう思ひました。死のコースを人類の多くの悲慘な人達と一般に馳けて行く私たちは何處で死の現實にふれるかを恐れずには居られないではありませんか。而して此の部厚なノートの末葉にいたるまで記し得るかを、同時に恐れさせるのであつた。どんなに大膽に日々の感想及び實際を記述しようとしても筆を染める心は全身の何處からも出て來なかつた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

私の局部に醫師が打診を行ふとき、その局部からは頼りない音が立つのである。又その身體からは熱が發生して私の食慾を遠慮なく奪つて行くとき、私は骸骨の如くやせて行くのである。醫者も此の上如何ともすることはできないといふ。私自身にも如何することもできない。それに悶えのみは少しも去らうとしない。益しげくなるばかりである。その時響くは東寺の鐘ボーン……波羅密多心經……ボーン觀自在菩薩行深般若波羅密多……鐘の音は寂かに響いてくるが、心はどうしても靜かになれない。かうして私の煩悶は限りなく續くであらうか……無心な花は年々歳々に飛落すれども、その千萬歳の昔から現在に又永遠の後まで相續されて盡きることはない。天の父、如來の大慈大悲に於ては野の花をもかく裝はせ給ふ。況んや人に於てをや。無音の風は竟にその音を絕つことがない。私はかくの如き暗示を夜半の鐘聲の後に受けたのである。

死……本來生死あることなし。かうして慰められる私はそのときその端的の喜びを禁ずることは到底できない。願くは凡夫の肉身を淸め給へと祈る。然し若し肉の亡びんとするとき、亡びたときは、私の魂を無心の花、無音の響として見給はんことを。

○五月八日　東京の弟より今日京都着來院すとの通知あつたので列車到着時間以後はさすがに待たされた。午後二時に近い頃、布團の中に寢て居た。ねむかつたのでうつ〱ねむつて居た時に彼の姿が病室に現はれた。いつものやうに落ち付いてゐて莞爾としてゐる彼に余も亦笑みを以て迎へざるを得なかつた。……やせた兄を見た彼の目はさぞ失望したのであらうが信仰生活にある余は本來の力は充分で顔にも何等の不安を現はさないでゐるので彼は滿足であるといつた。辻君に滿洲名物の菓子を頂き東根君に多くの夏密柑を頂いた。之とバスケットを持つて來た彼も亦嘸重かつたであらう。……午後九時半弟を八條の高道まで送つていつた。再生がたき私は又再會のかたきを思つた。……この日、中耳炎にてやむ。

○五月十一日　先日はむさ苦き病室に御見舞下され有りがたうございました。その後の發熱狀態は非常に輕快と相成三十七度を上下し食慾も充分です。元氣も一寸も衰へませんので御安心下さいませ。何の理窟もなく只拜んで行くのは私の現在の生活に對す(る)大なる喜悅と存じて居ります感謝と法悅に生きる私は此の上もなき幸福者のやうな自覺があります。然るに只一事遺憾に堪へざる煩悶の爲めなやまされて居ります。その問題を次に叙述したいと思ひます。それは左の如きものです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

「盜賊の保有する財產は不淨財なるや又いかなる場合に於ても淨財となることは能はざるや否や」

「若し淨財たるべき場合有りとすれば如何なる場合なるや」

と云ふ抽象的の問題に對する先生の御解釋を伺はしていたゞきたいと存じます。若し以上の問題を具象化してその盜賊の不淨の財を無意識の間に受けたるも(の)有りとしたらその受者の責任；即ち罪は如何になるものでありませうか

私は以上の問題の爲め玆二三日なやませられて居ります。

御承知の通り〇〇さんの行爲は、信仰家が常に感ずる罪は勿論、法律上の不法行爲を犯して居ると云ふ恐ろしきことをきゝました。あの人は遂に一燈園にきて落ちつくことの出來ない人であつたがしかし病弱な私に對して受(？)けた親切それは忘れることは出來ないですけれど！ 私は新生涯に立つとき不淨の財物に絕對に養はれず惠れてほんとうに生きると而して入院以來は一入此感を强うして居ります〇〇さんから受け(た)直接の親切は私にその人を疑(ふ)餘裕を與へなかつたのです。彼の人より三四回に亘りて四圓近くの供養を受けて居ります。それがその人の行爲上からとても淨財と信ずることは今では出來ない。自己の不覺の中に不淨の財物に生き血肉を保有したことゝ感ぜずには居られません。私は已に罪(の)自覺をして見ても今更どうともすることも出來ません。一切の罪は自己の罪として懺悔する外はないと……思はれます。自(爾？)後と雖も彼の人達の行爲を以て直ちにその人をにくむことは出來ない樣な氣持がします。理一さんにも伺つて見ました、しかし先生の

愛の御手により御解決を與へ玉はらんことを。(天香師宛)」

午飯後、今村とく子さん御見舞下さる。認めたる手紙をたのむ。午後四時鈴木ちか子さん來院。彼の女の顏今日は非常にはれやかなり。午後十時半、耳熱を去る爲め冷やし居るとき看護婦來る。新聞紙に包める或物を屆く。送りし人は藤原君にして今日來院する由なるまゝ預りおく。

〇五月十二日　天氣は幸に晴れて青葉の搖れる樣が窓越に見られる。初夏の青葉と杜鵑とを想像するとき悲痛な詩人の樣が思はれてならない。僕はかう思はずには居れないときが多くある。それは此の汚濁しきつた人類の心を自己の胸より吐く多くの血で洗禮し、ほんとうの平和が現實に彼等を抱擁して吳れるようにそして余自身の肉體はそこに亡びても、永遠の生命は此樂土に莅みて此等の人類と樂を與にしたいと。それだのに僕の周圍に集る人たちは何といふ罪の自覺のないのであらう。已れはどうすればよいか。僞善者よ、汝等の眼に僕の希望千萬歲を貫かんと欲するその

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

輝きが映じないのか。汝等の身體は何といふ汚れ方であるか。然し僕の大希望には人類の悉くが可愛くてならない。いかな殺人を犯しても、强盜を働いても……此處まで考へると涙が出る。絕對の愛に生きんとするものは、時としては絕對の愛の爲めに死するのだ。僕は今そうした境地におかれてある。……

○五月十三日　天香師より音信を頂いた「何事をも心配する勿れ」。僕は暫く考へた。然しその一語は祈りの中にはつきりと分らせて頂くに相違ない。大なる自然の前に何ほどのものがある。責めを負ふて立つ十字架の前に彼の人達と一緒に行くのだ。病んでおちつける僕と、眞劍に祈れない人と、何といふ悲痛悲慘でないか。金に惠まれない人、金に惠まれて汝は只それだけで落付ができるか。福田さんと數分間に眞劍な祈りを捧げるのほかはないことを訴へて天香師に傳へて頂いた。

五月の空は淸く晴れた。僕は祈つた。矢張りすつとした氣持ちになることができた。私はたゞ天香さんに心配かけてすまなかつた。

○五月十五日　空は晴れて五月の新綠が大なる希望のそれの如き輝きを示し微風自ら來りて枝頭を搖がすを見る。何といふ自然だらう。又平和であらう。他の人だちにはそれほど感興をそゝらざるものが、私たちに嬉しかつたり、他の人には悲しくないことが私には悲しかつたりする。今日は東寺の境內を步いて新綠の香に非常な喜悅を覺えた。池中のかきつばたの色にも矢張り心は十分慰められるのである。……近來の私は每日感激と希望とに生きて行く心は平和に惠れて行く。然し廿九歲の靑年が戀への道へ辿らないで禁慾生活してゐるのにそれだのに肺結核は容易に又夢寢の間に性欲が昂進を覺えたりする。私たちに性慾が昂進することそこには恐ろしい死の魔手が近づいて居ることを自覺せずには居られない。死それは色身を奪ふものに相違ないが、身體なくして思想を表現することの出來ない私たちにはそれが眞に悲しいのである。私は肉體の消滅をほんとうに恐れる故に內觀の秘法によりて充分の練膽を爲すの外はない。……今日は天香師の供養物を同病者に分けたり又他の人の供養を受けなごして病人間には親み深いものがある。命の親父のやうに思つてゐる主治醫の回診は今日もなかつた。

私は昨日我親愛さる天香師より小册子を送られた。それはロウレインのニコラス・ヘルマンと云ふ人の談話並に書翰である。この人は微賤無學に育ちたる人なるも信仰に於ては絕對の立場に居る人であることを私は知ることが出來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た。若葉に訪づる風の流れを受けつゝ私は此の本をよんで居るこき何ものにか引立てられて行くやうな感じが起つた。

○五月十七日　大難憂患一切の苦痛頭上に落下するもこれに堪へ得る力は主イエスに依りて與へられるものなりこの確信を握るまで一切の人こ語るを避けよ。今日無言の中に精修正坐をつこむ。天下すべての人に振りすてられるも我は主にありて强きものなり。故に醫師に依りて受くる死の宣言の如きは我に於て何の權威をも有せず。

毎日の施療院の生活は我に於て變化なきも事情は餘り悲慘過ぎる。吾人のセンチメンタルなる之を細記するに不堪余は人生の行程に於て幾多の悲慘事に遭遇したが此病院に於けるが如きものは曾て見なかつた。……

○五月廿日　……白隱が大病の間一日も靜坐學問を怠らざりしは取つて以て範こするに足る。……弟の來訪を待つ今日も切なり。

○五月廿一日　午後、發熱して内省の力をだに奪はる。その苦みは拔かんこするも不及。余は只、人類の一員こして最後を遂ぐるに如何にするかは、苦しきを忍ぶ第一の力である。

○五月二十四日　今三日をたゝば第廿九回の誕生を濟世病院に於て迎へんこす。感慨亦無量なり。此夜九時半松田ふくこ云ふ婦人死去す。無常迅速火宅の中こは噫々。

○五月二十五日　午後三時寺田こ云ふ婦人入院され夫君歸宅したる後九時再度來るにすでに死去したるの悲劇あり。病院の此頃まここに憂鬱の氣漲る。

○五月二十七日　第二十九回の誕生日。よし病院に於て迎ふるにせよ歡喜に堪へざるものあり。恩寵の生活に對する余の一ヶ年、短しこいへば短し、長しこいへば長し。かくして永遠に生きるの歡喜まここにかくしがたし。父母に對する追憶の爲め誠心祝ふ、何たる余は幸福ぞや。……

○五月二十九日　昨夜深更中耳炎治せず。益膿の量を增加す。然れごも此所にては充分の手當は不可能なれば殆んご絕望の外なし。余は死を欲せず然れ共必然的に來るは死なり。すでに病氣は致命傷であるのに他の病も倂氣になるは何ぞや。如斯場合に余の内面生活はいかになつて居るか？

午後天香師來院、余は大なる慰安を得その何故なるかを知らず。余の念こしたるが如き師には何の障りもなく解決の道を與へ玉ふ。余が入院するこき特に師の批評的態度を絕對になくせよこいはれたるは今にして三斗の冷水こなるもあり。

○五月三十日　余は入院以來曾て記述しようこ務めたのは食物の問題であつた。平生人生は何の爲めの存在であるか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

この疑問は起らぬ筈はない。『生きる爲めに食ひ而して眞理の爲めに生きる』と云ふことを多くの人からきかされ自分でもそれを信じて居た。曾て東京の青山學院で奉仕中野口君から『前には生きる爲めに食ふと云ふことを信じて居た今は食ふ爲めに生きるとの實感を得させられた』との言をきいたとき食ふ爲めに生きるものは所謂乞食も尙それを爲すとの反對論を提出した。然るに野口君のいつた言は現在病院生活者に適合するのだ。それほど病者と云ふものは食慾の奴隷になり易い。現に○○氏の口からもこれがもれた□□君の口からもこれをきいた。況んや無教育な精神的世界に一歩も踏み込むことせない無產階級の病者の集められて居る濟世會患者の病室に於ては一段の悲慘がなくてはならない。營養物を吸收しようとしても金のない爲めに絕望の淵に沈んで行くのが目に映じて行く。病衰の結果、食物が口に入らなくなるとき又そこにも悲劇が起るではないか生きる爲めに食ふと云ふやうな美しい言葉は身體の丈夫な人達にこそ云へるのだ。此の樣な悲劇が實際何處で見られるか。余はこれを冷かに見ることは出來ない。病院に生活してゐる患者たちが毎日の如く五錢十錢の買物をたのむほどあはれな生活が何處にあるか。

空は曇つてゐる。今にも降りさうになつた。蚊が襲うて來るのと非常識な女達の騷ぎでねむりに落ちられぬ。

○六月一日　……人の罪をならすはいかなることにも爲すべきでないことを知る。

余が喀血したるは昨年の今頃で、三日は即ち我れに新生涯の出發點を見出さしめた日であつた。此の惠まれた一年間の回顧するとき、こゝに開けるのは只淚の外はない。悲！　歎！　それが繰返されたときお光のありがたさもほんの少しだけ味うた新生涯の余は幸か不幸かほんとうに虛僞のない生活はなし得なかつた。若し僕の一年間に朝に道をきいて夕に死すとも可なり程の眞劍さが有つたら今死んでも悔の殘る可き道理がない。しかし死にたくない余の心理の中には何物が動いて居るであらう。これから百尺竿頭一步を進めて不惜身命の修業をなさねばならない。喀血恐れるに足らず熱發恐れるに足らず。我が眞の友を千古に求むれば白隱老師の如く、指を屈するに遑あらず。何の淋しきことがある。勇往して斃死するものはない。惠まれたる內觀の秘法勤めずには居られぬではないか。僞善を避けよ。眞に之れをにくめ。然らずんばとても聖なる道を踏むを得ず。

キリストの十字架を背負ふものはたれぞ。自ら進んで之れを荷へ。神は必ず愛の御手を伸ばして患難に堪へるの力を與ふ可し。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

想到すれば芝の生活三ヶ月は涙の歴史の第一頁であつた涙……幸にして近來元氣の加はる。一大歡喜に相違なきもう感謝の外に何もない。も一層不轉の精修を要す。

〇六月二日（體量拾貫七百、裸）

午前氣分よきにつれ『伊豆に旅立つ日』をかく。午後町の洗湯に行く。**洗湯の味を味ふこと半歳目、實に爽快氣に打たる。**飛白の單衣に學生々活を想起したり靜坐の腹力に病を忘れたり近來頻りに快い日が續くことを隨喜の涙を以て迎へて居る。入浴後西田さんを訪ふ。中村さん森島さんも居合はす。そこに僕を加へて都合四人氷を食ふことになつた看護のとく子さんが買入れの奔走をされる。かうして四人して食ふのも一つのレコードさと中村君が獨創的發言を爲す。……

〇六月三日　今朝八時十五分磯部と云ふ女患者長逝す。入院して四日目に死すとは實に愁傷此上なし。彼女の不幸な病に犯されるや夫君の親は之れを追へりと。何の殘虐か之れにすぎんやだ。しかし不幸な魂も夫の親切には安らかにねむることが出來るであらう。かうした美しい情緒の發露が比較的下級の人に見られるのは喜びにたへない。

他人の嘲弄は忍ぶ可く近親の冷笑は忍ぶ可らず。余の如き人間苦の多きもの故郷の土は、とうてい、ふめない。それを思ふとき他郷の空で死去するのがいかによきか。噫ま

〇六月五日　午前二時、彼れ病少年數井末治郎君の命數すでに極まれるか呼吸次第に逼る。生きる力も科學の力も今は如何することも出來ない。**只拱手して之れを傍觀するの外はない。二時十五分彼の呼吸は薄弱となり全く死の深淵に陷れり。**如何に冷靜に之れを見るも一種の慟哭禁ずる能はないのだ。蟲の呼吸それを繼續することゝ三十五分にして幽明所を異にして充たされざる魂は永遠の彼方に飛び去つたのだ。余の此時の如く深刻な死の感に打たれたことはない。最後の一息を引取る刹那の苦みは無垢の少年のその顏に凄慘な表情をなす。是によつて彼れが十三年の生活力は全く已むにいたる。他人の死の前に立ちて冷然たるが如く自己の死に對しても冷靜なるを得るか。

〇六月六日　天香師新潟より手紙を玉ふ。無限の歡喜に打たる。怠らんとする信仰、なまけんとする靜座、自己の日課が信仰と正坐でありながら怠りがちになるとき師に勵まされ院長にはげまされて精進することの出來るのは大きな喜でなくて何であらう。病少年逝いて廣い病室に二人。淋しさに心かなしむ。

京都の山は何といつても美しい。東山が繪の樣に浮き出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

してをる。引き入れられる樣な自然の〇〇（二字不明）は自ら向いて七條驛にいたる。梅雨近き空に綿のやうな雲わきて雷聲二度許りきこゆ。

〇六月八日　……院長の爲したる『生命の神秘』を拜讀するの機會を得。自然の良能は力づよきドクトルにして人皆完備せるも文化の力は是れを却つて妨げて病を慢性にするもの多し。と先生の精神的生活は醫術と此の自然の良能と共に發揮して充分の好結果を示して居る。人生何物ぞ、眞理に生きる力のいかに偉大なるかを思へば最後の一秒にいたるまで失望するの要なし。先生は兩肺を侵されて余等の及ぶような輕患でないといはれるにあらずや。その言の力ありて我れを慰する恩惠にあらずや。又精神的肉體的になやむ病者の大なる福音にあらずや。

〇六月十二日　はれ熱高からず。一度病院生活を始めればいかなるものでも怯心を生ぜざるなく、いかに人生の望少きかを嘆ずるのだ。一燈園の準同人の某氏來訪、語を交ふる約半時。余は一燈園の貴族的傾向を有することの益濃厚なるを痛憤す。某氏も或は資本的階級の人なるか知れざるもそんなことには無頓着だ。天香師の意思を充分發揮するときお光の惠みとは大體何を云ふか。曰く裸になれよ、裸體のまゝに佛の前に立つにあり。午後新來の醫師により余の身體は診察されたり。

〇六月十七日　一燈園が余に供養されるものに障りあるものあれば斷然是を拒むまで。それより苦くても血によりてなされたる人々の間に之れを求め、大なる信仰を進め濟世會に入れて貰つてその供養を受けるの外はないと決心す。

余は大難益加はるも益それに堪へるの力を得させられんことを祈る。時にとく子君來る。宣光社に電話をかけました所、只今園から來ては居られないので明日持つて來ると然し〇〇〇さんに今一人〇〇に家をかりて僅かの病氣を轉地して養ふときいてをる。余に對するのは餘りに冷遇だ。無一物と絕對の下座は師の主張の中心である。然るにそうしたことをしてをる人たちをあくまで遷延久くして施すこと云ふのは果して隣人への奉仕が成立つか。余は然しおそきも感謝して之を受くるのだ。

〇六月十五日　昨日私は朝から下痢を始めた。夏の下痢はあまり氣持よきものにあらず。氣持所ではない。腹がへつて居るやうでお飯がたべられない。やむなく玉子二つで晝飯のかはりをなし、夕飯には素麵の中に玉子一個をいれて一日の命を保ちたるも矢張り御飯でなくては充分の元氣が出ない。それでも靜坐は二回やり丹田の力は集中させることが可能であつた。それに拘はらず今朝は大いに元氣で午

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

後二時すぎ御大師樣への參詣を爲すことが出來たのは嬉し私たちにも出來得る限り種々の慰安は常に病院から與へられて居ります。今日は供物に寶物拜觀劵施本劵茶菓劵を惠まれたのであるが、さすがにつかれて誰ぞに上げようと思**つたが無鐵砲にそれをさしあげることも出來ないので、や**むなく自分で拜觀しようと思つて觀智院にいたる所にて病院の小使に會うた。それで都合よく二枚を上げることが出來、茶菓だけ三人分いたゞいてかへつた。それはまちがつて私の分に二枚あつたので目の見えないお老婆さんの皆無なのと丁度都(合)よくおばあさんは大變に嬉しがられた。

○六月十六日　……幸なるかな、先きに小林院長の雄辯をき、今また精常會の別所院長の雄辯に接せんとする。眉見のシワを一時に伸さばホルモンの內分泌偉大なる抗病力となりて瀕死の病人も起死回生の大歡喜に接すること易々樂々たりと。余輩は先づ此力ある言を味へ而して病に大膽に精修怠る可らず。……

今日午後七十七の老婆平井しかと云ふ人入院す。所謂老衰甚だしい上に病を得ては物の哀れを彼婆さん一人にあつめたる心地す。生死苦のがれがたき人生に彼れはその事實を吾人の目前に之れを示してくれた。彼れに多くのシラミをると云ふ。それを恰も喜びでもするかの樣に大きな聲で叫ぶ女小使の醜さ。まだそれ所のさわぎではない。婆さん寢尿したと云ふ騷ぎ。そは最も重大な事件でもあるかのやうに云ふ淺ましい人間。他人の失敗を見て快い思をする。何と云ふ殘虐な心でせう。老婆は元この病院の中に看護人**として居たことがあると、如才なく二人の小使に幾**何かの心附けをなす。その心まことに哀むべしと雖も、彼れの如き人の心附けを受ける人達の心は如何であらう。醜は醜を脫せない人の心の荒みを。

○六月十八日　發熱の度は朝から三八、八を示す。私も思ふが故に感ずるで、外部より示された暗示は多少の苦痛を感ずるのだ。兎に角靜かにして居る必要ありとして讀書も之を止む。

私は熱が高くなつても昂奮煩悶しない修養を惠まれてるます。そこには尊い佛の常光明がたへずてらしてくれます……氣遣つて居た中村君が二度もたづねてくれ森島君も訪ねて下さいました。……

靜坐は平時のときの樣にやつて居ます。勿論此の爲に斃れるには何の理窟もいりません。然し私は此精修により必ず雲霧を排して大歡喜を得るの日あるを確信して居る即ち越えがたきものを超えて人間のそれに悟入するとき何の煩もない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○六月十九日　……佛心のために奉仕するものはほんこうの下坐が出來るこき、對者の如何は問題でありません。隣人への奉仕をするこき、そこに貴賤老幼の差別なく愛の使命を果すこごが出來るこ思ひます。宗教家信仰に生活するも道德の行はれる所、必ず同情の念の起らぬはない。然るに弱者の集りたる施療病院の中には患者同士の同情の念の湧くのは當然であるのに、老人はのけものがちで老人はいやがられるのである。午飯の後に老人、便を爲すにその危き姿勢こ不自由こは竟に後顧せるにいたる。余は熱があらうが何處が惡からうが扶けるだけは扶けなくては出來ない……然るに○○君の如きは余こ比較にならぬ程の自由を有し乍ら平然たるは人間こしての同情なしの者でなくてはよく冷視するこごは出來ない。余は彼をたすけた、小便もついてをれば樣々の不潔は已むを得ない。君に對して一燈園の主旨も問はるゝまゝに話した。宗教の話題にのほつた。その度に熱心であつた、それに今の如き態度をその人に見る、余は大なる教訓を得た。不德な余の言の如き何權威もない。更に精修の修業を爲すのが今の私の最も佛心に協うた所であらう。故に云ふ『要事の外は一切を不語』こ。

○六月二十四日　……四十度近くの熱に一週間計り苦められ元氣全く拔けて心まで病の擒こなつてしまつた。昨日は特に苦しかつた。午後四十度近くの熱こ數日甚だしかつた咳の爲め胸骨の痛み強く息づまる樣な苦しさには全身を汗ばました。それはごうして私ばかりが無事であるべきでせう。數日苦悶を續けた老媼が午前十一時三十分に死去され午後三時半には亦二六の青年橋本光太郎君が死去されたのだものね。

見舞うてくれたこく子さんこ語つた。『うちでも咯血が止まらないので、それにお氣が弱いので……おば樣に上げ樣こ思つて持つて來たけごも、あなたあがつて下さいますか』こ、さくらんほうこ枇杷こを下さいました。果物が食ひたくても自由のきかない私には不自由は免れない。こく子さんが去つたあこで私は祈りました。ごうか理一さんが一刻も早くその苦みから脱されるやうにまた中村君が元氣を恢復してくれる樣こ。

此の四五日はまこごに私に取つて苦しかつた。已むなく日誌もやめて靜養した。而して苦しき反面に煩なきのみならず(今日は午後七度五分、脈之こ平衡を保つ。先づ元氣恢復は疑なし)淋しさ少しも起らずかへつて我死せずこの活々たる氣に充足されたここの力強さよ。是れ自己の力にあらず惠れし念佛の力なり。

○六月二十五日　苦しかつた數日はのろひ(?)の如く肉體

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

を襲うて事物の眞相を捉へる事は愚か正則な考察さへ許されなかつた。此の環境にあつて嬉しいこ思ふものが有りこしたならば、たしかに暖い人情である。こく子の君の數度の來訪は此意味に於て感謝に價するこ思うてゐます。

○六月二十六日　……午後三時半雨はる。陽光鮮かに雨にぬれた靑葉にさす。靑葉の色またキラキラ光り看護婦連のはしやぎ醫務局の方でピンポンをする音す。私たちは極まつた樣に檢溫こ服藥こ退屈こに日を暮す。信に生ける者は幸なり。

　午後一時保太郎さん來訪。例の幸さん及び三木こし子樣も同伴こし子樣よりお花を頂く、まことに可愛花。

○六月三十日　達するにかたい誓願。凡夫は凡夫こしての要心がいるのださうだ。少し位の熱に怖れて何こする。熱時は熱を熱殺し寒時は寒を寒殺す。今大宇宙より授けられたる公案に向つて不惜身命の精進を爲すのだ。……午後二時東京の弟より來信、私の僅かな靈光も誠意あるものには力こなりて響く可し。中に一圓五十錢同封し來る。

○七月三日　昨日の餘雨まだはれず鬱陶しさ限りなし。午前病院を拔けて雜誌及び紙その他の必要の品を求めて歸る北村君の衰弱甚だし。余は思ふ、人はパンのみにて生きるものにあらず精神生活の偉大さを痛感す。午後、食後三時間に亘りて新聞の切り拔きをやる。少し肩の凝りを覺ゆ。午後三時回診あり、午後靜坐を怠る。余は森君の今日も母人に對して虛言を吐くを憫みこす。午前外出の際、桃四ケを求めて歸る。彼れその桃を乞ふも余與へず、然し乞はれて施さゞるこきは快からず。夕飯後新聞をよむ。

　夜十時ツルリーのおぢ君、北村さん北村さんこ高聲に叫ぶを耳にす。彼は死の境にいたれりこ。私は大いに驚いて彼の部屋にいたるに、すでに、無意識狀態に陷る。醫師の應急手當によりて僅に血行の衝動を始めたるを以つて水その他のものを飮ませるにより苦悶を始む。附添もなき一人の重症患者を放任しておくも危きを以つて余は彼の爲め十二時までも彼れの部屋に居る。そは上京の親類に電話かけたるを以つて二時間ののちには來らるべしこ思ひしも何人も來らず、即ち午前三時近くまでねむらず。少し發熱の徵候あり。

○七月四日　昨夜の寢不足こ神經過敏の爲めに氣持わるし北村君は昨夜の如く囈言を續けて居る。早晩親類の人來らる。二十五歲の青年が如何なればかくなるものか。午前十時東京の弟より爲替來る。その證書は五圓也、余も亦隨分現金主義なるが如し。少し經てから、こく子の君來玉ふ。菓子を與ふ、子供の如く思つてか呵々。……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

小使のおばさんが『北村さんは死なはりました、六時二〇分に』私の胸は非常に跳つた。昨日以來とても死は免れることは出來まいと人の死を豫期してをり乍ら悲痛な死の狀が如實に反映するのでした。特に長軀に出來上つてをる彼の身體を評して余北村長竿居士などといつたり又は杜選極る性相學上から色々なたわむれをいつたり花菖蒲咲く東寺の境内を散歩したのは、つい十日計り前ではないか。人生は何と云ふ戯れであらうか。豪雨の音は恐ろしい樣だ。通夜をする人達はいかに淋しさを感じてをるでせう。彼に七十歲を越した老父があるのに、余は思はず南無阿彌陀佛と御稱名をとなへさしていたゞいた。

○七月六日　過日全快退院されし老婆あり私たちの仲間の内に特異な人でありました。當然受く可き賄の辨當にも佛の御名により感謝し私たちの上げたるものにも佛の御名により感謝するではありませんか。それのみか彼の女は絕對無抵抗の德を具へて居た。彼女の夫は土方に等しき仕事をしてをるもしかも暴なる所が更になかつた。私は彼女の如く讃佛讃仰の出來得ればよし極端なドン底を流れていつても必ず明月もうつり淸風も吹くものだと思ふ。私の入院してから多くの患者たちが來たが彼の女の如きは只の一人も見なかつたではないか。只私の心の友となつて信仰に導いていつて吳れられたのは彼女一人である。

反之前途ある靑年が犬の如く猫の如く取扱はれその行爲に對してのみ憤つたり信佛的生活も精神も無視せようとするのを見る。私計りはそうした生活をしたくない。キリストの所謂人はパンのみにて生きるものにあらずといへるが如く、或は生の希望と信仰とに生活したいのだ。かうしたとき、いかに貧しき食物も必ず血となり肉となることを信ずるのであります。起死回生の實あることも疑へない。孑々たる一女小使達に一鞭だも加へようとするのは、また嗤ふべきではないか。一網打盡手を用ゐずして亡ぶべきものたゞその心性をあはれむのみ。

○七月十一日　午前はれ　夕方雨。

午前十時一枚看の飛白の單衣を着て病院の裏門を出る。久振りの好晴で、頭が割れさうで、然し四國の山々がかすみをかけて浮き出てをるのは室内に計りとぢ籠るもの・氣をはらすに一番ふさはしい。高道を歩く私は少しの苦痛なしに歩くことは出來ないとしても、明るい希望が燃え立つて前の樣な失望を感じなくなりました。高橋を越した所に在る郵便局に月始めに東京の弟より送つて來た爲替金を受取りに行くので有ります。序に賴まれた端書を投凾して文房具店にまわりました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

要件をすました後ぶらぶら歩いて歸路に就く。道に野菜を商ふ男あり、奇麗な桃をも車に積んでをる。元來果物好きな私は之れを買ふ氣になりました。かうした時永遠に書生氣分が失はれないと思ひました。本當に近來は友あれども談ずる能はずで室内は寧ろ山中の森の如き狀態です。

私の隣床の青年は全身動けない程の重病に陷つてをりますが誰も來て親しく看護する人はないらしい。その有樣はじつとして見てをることの出來ないのです。然し自分が病人で毎日三十八度以上の熱があるものそれでも今朝計りは見かねました。右の手に大便をべつとりつけてるもの。私は水を汲んで來て上げたが充分一人では洗へないのですもの。私も手傳つて洗ふことにしました。夏の病院、床の上で便をやられては實にたまつたものではあゝませんが、それは仕方のないことでニイチエか誰かゞいつた樣に『弱き者は亡ぼすべし。是れ汝が最大の慈善なり』と。本當に弱者は小さい慈善に苦められることを今實驗しつゝ有るのですもの、或意味に於て小慈善に對しては反逆せねばならないが、此の病院の北室の人達は濟世會に收容されてるのを恰も特權ありとして誇るべきかの如く考へてる青壯年の人達のあるものは悲むべき心理ではありませんか。

午後院長子の回診。私は發熱中も尙靜坐を續け飽くまで病を制御する積りですといへば、先生大いによしといはる若し先生の中止論あれば一言なかる不可と考へて居たるに先生はさすが傑物なり。

青年に賴まれて箱すしを買ひに行く。三十の眢男が玄關の所にてとく子の君と合ふ。

夕食後雨大に降る。

○七月十二日　先づ晴。

昨夜ねむれなかつたので氣持が惡るい。留田君に誘はれて東寺樣に參拜。もう蓮の花の香りが池の方から心地よく朝風に送られて來る。何と云ふ美しさでせう。愛くるしい鳩群のクックと遊べるを見る。何と云ふ平和な朝だらう。

森君の全身不自由なために本人は痛切に困惑してることでしよう。のみならず側にねて居る私たちも相當に迷惑を感ずる。私は少し猛烈なことゝは存じましたが自己を處理するだけの注意を喚起さすべく森君にすゝめました。しかし全身不自由に陷つてをる人を傍觀するに不忍、晝と夜と共にその食事に手傳はしてもらつた。

午前天香師來院、病をとはる。

午後とく子の君來玉ふ。彼女に森君の現狀を語るに、それでは私母樣に急を告げて來て上げますと快く承諾して參られました。母(森君)は不在であつたので宅の人に傳へて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

來たこ。

さく子樣が去られましてから、暫くして中村君の附添のおばあ樣すつぽんの煮たのを持つて來て下さいました。高價な然も榮養價の豐富なものを送つてくれる中村君の親切は衷心より感謝するも。あまり滋養物づくめで病をいやさうこするのに憾こするもので有ります。再度目に手紙をおいて老婆の去る。その手紙は僕に對する輕い皮肉の樣でもあり又挑戰(議論)の樣でもあり、或る意味に於ては人の修養を妨げんこするもの、樣にもある。彼は何が故に一夕の食を共にして貧乏な私にその豪勢な療病振りを示して物質療法の不可能な者の精神を誘惑攪亂せんこ試みるであらうか。私は只單に發熱時の神經昂奮に基くものこ見たいが彼も一個性を有する紳士的な人こするこき如上の感なきを得ないのを遺憾こす。私は彼の招待には應じますまい。

○七月十四日　晴。

午前十一時半外出。白玉粉を一袋求む。午飯をすまして早速寒晒團子を作りにかゝる。かうしてをるこ平和を感じてをる。作りあがつたころ別室のアイスマン君、氷を買ふそれに小さく作られた團子を冷しておく。充分冷却したので攻擊に着手す。砂糖自分持ちで南室全部の病人で喰ふ。一時間半計りも作るにかゝつたので大變に身體がつかれたが別に惡くもならないこ思つて居る。

午後五時手紙をかく。東京の弟に昨日の小包の御禮に。京都の盆は一月おくれで八月ださうです。布團を替へていたゞく。

○七月十五日　晴。

靜坐をしてをる私、熱がどうしても下らないのです。しかし此の上如何することも出來ない。氷袋を用ゐることも不可能だし、只すわつてをるこき好い氣持になり得るのでその端的な氣分によつてその外は支配するのより途はない午前も午後もなるべくすわるこ云ふ習慣を作るの外はない私はかうしたこき關ヶ原戰の島津義弘の前退の語を強く感ずる。我れ世に勝てり。即病魔の爲めに支配されず、かうした力強さを自覺するこき無限の歡樂を想起することが出來るのだ。肉體的に强さを誇る、肉體的に生きようこするそれ計りが人間本來の目的なら、私たちは修業も修養もいらない。生存の意義も減却される。そこに人類の存在を意識するのは愚の骨頂で早く片附けて、さつさこ地獄に墮して行く可きであるこ信ずる。私はこの中に神の存在を如何して認められませう。然し私たちの行爲は、本能の衝動のみによつて規畫されてないことは、辯じて而してのち知るものでない。故に苦しみつゝある底より歡樂が湧き來りて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

喜悦を與へて與れる。此の瞬間的の悦は求めて得らるゝものでなくて是法悦である。

午後鈴木樣歸園、交替の人來玉ふ。

夕飯後、天香師來訪、茶菓を玉ふ。

○七月十七日　曇。

森君、用便の不自由を訴へて寧ろ死せるに如かず、殺して貰つてもよいと云ふ。何と云ふ悲慘事ぞ。活動的の青年が病の爲めとはいへ、さうした悲痛な言語を發せしむ。噫何と云ふ無常なことだ。

彼の母は繼母で理窟づくめにして何等親切味はない。彼の妹は一人の兄の生命よりも母の小言を恐れてゐる。世に異母たるも異子たるも不幸此上なし。全く一日の中、數回の用便を他人の手をわづらはす。森與三郎君の悲み亦然るのみ。

大死一番奮然として進むべし。死生の境にさまよふ愚を學ばんより、突進に突進、解脫を佛に願ふのみ。大勇は暴虐ならず。沈着な所にあり。何物か是れを犯さんや。醫師たとへ死の宣言を下すとも自ら生きるの力は强きものなりと信ず。何物も我が信念を奪ふことは出來まい。

暫く熱七度五分位か。もう熱に打ち勝つたのだ。

（日記はこれで、きれてゐます。二十二日に係りの醫師の方から「もういかぬ」といふ、しらせが、病院へ托鉢中の同人にあつたのださうです。最後までみとりしてくださつた同人さく子さまのお言葉によれば、なくなられた日即ち二十三日の朝は、さすがに神經が昻奮してゐられたと見えて、ものいひから、しぐさまで、今までに見ない、平靜をかいたものがおありでして、氷など切りにかぢつてゐられたさうな。（松））

ある夜の對話

きちゑ

甲。どうせこつちの氣もちどほりには理解されまいと思ふが――

乙。いふものにはいはせておいていゝでせう。で、ずん〳〵やるんです、やつたゞけは何といつたつて事實なんですから。

甲。さうだ、「事實」はけされつこはない！　誰がみとめなからうと、覺みのものが悲しまうと、友だちにすてられやうと「聖いもの」のお導きに耳かたむけないわけにいかない。だけどさびしすぎることはある。

乙。やはり、あなたでもさうですか？

甲。「眞」をみつめて生活きれば、人生はさうにぎやかなことばかりはないだらうと思ふ。こんなおそくになど、さえた星にぢーつと見いつてゐると、實にたまらないさびしさにおそはれてくる――

乙。何だかめいりさうな氣もちになつちまつた。もうよしませう。おねむくなければ石にかけて奉仕日の行持の相談などねらしてもらひませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

天香さんと倉田さん

――或る日の私と私の妻との對話――

谷口雅春

私。〇〇からこの仕事を頼まれて居るが、自分は頼まれたまゝにこの仕事を奉仕するのが本當に好い事か悪いことか考へずにゐられないのだ。何故なら〇〇が本當に淸いものだといふことが今の私にははつきりと保證出來ない。〇〇は私の奉仕するこの仕事を利用して何かよくない事を企てるかも知れないやうな氣がするのだ。

妻。貴夫は頼まれたことは何でもなさらなくてはなりませんわ。この仕事がよくない、この仕事はよい、と區別なさるのは貴夫の我まゝだと思ひますわ。そら、天香さんが『懺悔の生活』に書いてゐなすつたでせう。大學生がある女郎屋へ托鉢に往つて、客の來る座敷を掃除してゐながら、この座敷を掃除すればするほど居心地が好いので淫蕩な客が殖える、遊び客を殖やすこの托鉢は好いのか悪いのかわからないつて考へたつてことが。ところが天香さんは、女郎屋へ君が托鉢に行かなければ女郎屋は別に他の人を傭つて部屋の掃除をするから同じことだ。唯君のやうな人が執着をはなれて奉仕として掃除して呉れゝば、それが因緣になつてその女郎屋の周圍の人を改心さすことが出來ると被仰つたつて。貴夫はさういふ態度で〇〇から頼まれた御用をなさらなければなりませんわ。貴夫がその仕事をなさらなければ、〇〇では又別の人にその仕事をなさせるに極つてゐますわ。別の人がその仕事をするよりか、執着のない態度であなたが招かれるまゝに往つてその仕事をなさる方が屹度周圍の人を淸めると思ひますわ。

私。自分も時にはさうでなければならないと思ふのだ。しかし私の頼まれてゐる仕事はね、その仕事を一種の看板として〇〇は一種の企てをひろげやうとしてゐるやうに思へるのだ。〇〇自體の企てが悪いものであるならば、自分の奉仕でいゝものが出來れば出來る程、看板がよくなつて、羊頭を掲げて狗肉をうるその悪い企ての助けになるかも知れないのだ。それを自分は恐れてゐる。

妻。それは一種の差別見で無相不二の一燈園の態度でありませんわ。

私。わかりにくい漠然とした自分の場合では、お前には

判斷がハツキリしないんだと思ふから、極端な例をいふが、喩へば曖昧屋から娼婦が一人不足したから、春の奉仕に一燈園の女の同人の方に來て與れといつて來たら、春の奉仕に往つても好いもんだらうか。

妻。そんな馬鹿なことには誰だつて、招がれても行きませんね。それは自分の人格を凌辱することですもの。

私。人の淫慾に奉仕することは人格を凌辱することだとお前は云ふが、その他のことで自分の判斷で惡かも知れぬと思ふものに奉仕することを自己人格の凌辱だとは思はぬかね、それ自身好い仕事だと思ふものに良心が許して奉仕するのならば、人格の凌辱ではないが、よくないと思ふ仕事に、自分のムシを殺して奉仕するのはやはり人格の凌辱だと自分は思ふ。何も春の奉仕ばかりが人格の凌辱ではない、惡と認めて良心が欲しないのをムシを殺して奉仕することは凡てが人格の凌辱だ。かゝる仕事も好い事だといふならば、春の奉仕も好い事だ。

妻。鰻の居ないところに鈎を突込んでゐても仕方がないと天香さんは被仰つたでせう。そんな春の奉仕を求めるやうなところには鰻はゐませんわ。だから奉仕に行く必要はありませんわ。

私。鰻がそこにゐるかゐないかは往つて見なければわからぬ、だから一燈園的立場からは一晩だけでも春の奉仕に行くのが本當だ。

妻。お光にさへ委せておいたら、そんな奉仕を要求して來ることはないでせう。

私。一燈園の女性は必ずしも托鉢から夜晩くかへり途に兇漢におそはれないと斷言することは出來ぬ、丁度一燈園の同人でも災厄や病氣にかゝるやうにだね。その兇漢が春の滿足を強要したらどうする。

妻。極力反抵しますわ。そんなものは氣狂ですもの。

私。この世のものに執着してゐるものは皆な氣違ひさ。一燈園的立場から云へばね。この世の一切は執着する價値なきもので、執着する價値なきものに顚倒想によつて執着して自ら惱みに陷つてゐるのは皆氣違ひさ。だからこの氣違を憐んで、自分は無相不二の立場から、色は即ち空であるから、本來淨不淨なきものであるから、自分の人格が淸まるの汚れるなどのといふ差別見にとらはれることなく、若したのまれゝば相手が眼を求むれば眼、手足を求むれば手足、淫慾を求むれば淫慾を與えつくして少しも執着しないものでないと本當に徹底した無相不二の行者と云へないぢやないか。こゝには淨不淨を超越した一層たかい淨があるんだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

妻。私は考へて見ねばなりませんわ……

私。自分の見た一燈園の立場からは今云つたやうに、どんなに汚れた要求に對しても、淨不淨の差別見をいだかずに奉仕するのが原理としては極致であると思ふのだが、それを實行に移す場合には欲求の淨不淨とか、より効果のある方へ奉仕するとか、どうしても差別見なしには實行に移り得ない場合が多い、原理としては無差別不二であるべきだが、實行に移るには、差別的判斷が要る、色即是空式の「寂」の觀方から云へばより多き効果とか、よい少き効果とかにあるべき筈ではない。しかし天香さんも『鴿の如く穩かに蛇の如く敏くあれ。そしてより多き効果のあるところへ奉仕せよ』と云はれたことがある。原理としては無相不二だが、實行としてはより多き效果を得ることを標準としなければならない。自分は本體論としては天香さんのやうに、この世界は不增、不滅、不垢、不淨といふやうな性質のものであることをみとめ、現象論としては倉田さんのやうに宇宙の進化を認めるのだ。そして現象世界に存在する執心に奉仕する上からいへば、より多く效果ある方式をとらなければならぬのだが、より多く效果のある方式をとると云ふことは慈悲そのものの拔苦與樂の性質上愛を實行に移すために是非とも必要なことであるのだ。一燈園はより效果多き方式として下座を採用してゐる。下座はよきことである。それは愛を實行に移す方式として、他の嫉妬を起さしめず、傷いたもの、弱い者を同情する方式として極めてよきことである。しかし現象世界の執心に奉仕する方式は常に下座ばかりが效果ある方式ではない、これは天香さんも屹度氣がついてゐられると思ふ。さうであればこそ、天香さんは講演をも此頃はやられるのだと思ふ。どういふ奉仕の道をえらぶといふことは、その人その人の天禀によらなくてはならないと思ふ。天香さんのやうな人が一燈園式の奉仕の道をえらばれ、倉田氏のやうな人が思索と藝術の制作による奉仕の道を選ばれ、武者小路氏のやうな人が思索と創作と、新らしい村の試みに於て人類と神とに奉仕の道を選ばれたことは嬉しいことだ。倉田氏のやうな人が下座ばかりの奉仕をして下さつても人類は喜ばない。人類は倉田氏に思索してくれ、藝術を制作して呉れと頼んで居て、炊事をして呉れとも、便所掃除をして呉れとも頼んでゐないからである。さて自分が本當に人類からたのまれてゐる仕事といふのは何だらうか、かう思ふとさびしくなるよ。

妻。人類は今貴方に〇〇から頼まれた仕事を是非完全に果して呉れと望んでゐるやうに思ひますわ。

私。それで、自分はかう考へるのだ。自分の考へをまと

めるためにも一度順序だてゝ云つて見やう。宇宙は本體論としては、不生不滅、不增不減、不垢不淨であるから無相不二の立場に立つ自分に於てより多き效果とかより少き效果とか、これは淨、これは不淨とか云ふ執心はあつてはならない。自分は賴まれる儘に奉仕しなければならない。けれども、賴まれるといふことは眼の前へ見える所へ來て賴むといふことには限らない、耳で聽えるやうに近い所へ來て賴むといふことには限らない、叉手紙で賴んで來るといふことにも限らない、一言にして言へば接觸する少數の隣人に賴まれた仕事だけが、自分に對して賴まれた仕事ではない。法界はある人には眞理の探究を思索といふ方式でやつて吳れと賴んでゐるかも知れない、人類はある人には美の創造を『藝術創作』といふ形式でやつて吳れと賴んでゐるかも知れない。法界から托された仕事、人類から賴まれた仕事、これらは凡て賴まれてやる仕事のそれ〴〵の種類であつて、かゝる場合自分が賴まれてゐる仕事を「使命」といふのだ。少數の隣人から接觸的に賴まれた仕事のみを退引ならぬ賴まれた仕事のやうに思ふから、淫慾の奉仕すら拒むことを「我執」ではないかなどと思ふのだ。法界全體が、そして人類が、淫慾の奉仕などしてくれるなと賴んでゐることが明かながら、淫慾の奉仕を拒絕するのは「我執」によつて拒絕するのではないのだ。法界からのたのみ、人類からのたのみに從順であるために拒絕するのが當然なのだ。少數の隣人からと、人類からと、法界からと同時に吾々は常に賴まれてゐるのだ。もし少數の人類からの賴みが、人類や法界からの賴みと反背してゐる場合には、少數の隣人からのたのみは犧牲にしなければならない。法界と人類とが、その人に少數の隣人に奉仕すべくたのんでゐる時のみ吾々は少數の隣人に奉仕して好いと思ふ。さふ云ふ人が少數の隣人に適當に奉仕する場合にのみ少數の隣人を通じて人類が淸まつて行く。天香さんの奉仕は天香さんが及びそれに共鳴し得る使命的同質の人にのみ意義がある。何人もあれでなければならぬといふことはない、倉田氏がとつてゐられる使命に生きる傍らプライヴエートな生活をも許して行きたいといふ此頃の傾向も、人類が倉田氏にそれをのぞんでゐる限り單に「我執」ばかりではない、それは實に賴まれた仕事の一つといはなければならぬ、しかし自分は倉田氏が宇宙の進化を認めて使命的生活を力說せらるる奧底に本體論的には不生不滅不增不減不垢不淨の世界觀を把持せらるることを希望せざるを得ないし、天香さんには現象論的には「宇宙の進化」なる法界の動向と、人類の希望とを認めて貰ひたいと思ふ。これによつて倉田氏は使命的緊張の奧底に悠々せまらざる大安住境地が得られるし、天香さんは少數の隣人から賴まれることの卑近な奉仕のためには法界の進化的動向が賴んでゐる文化使命をなみしようとする弊害から救はれると思ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一宿兩餐の客となる

松井生

一

道を求め友を求めお光を慕ふて一燈園の一宿兩餐の客となる。幸ひにも半月餘り歸園されなかつた天香師が歸園された當夜に巡り合せた。四日の黄昏であつた。南禪寺で電車を降りて閑寂な永觀堂前の銀閣寺道を北に鹿ヶ谷へ出て標柱を頼りに櫻谷町のなだらかな阪道を一燈園へ辿つた。黄昏たばかりだのに比叡の積雪をかすめて吹く風は身を斬るやうに痛かつた。土に沁み入る寒さをぢいつと吸ひつけるやうに星は瞬きもしなかつた。如意ヶ嶽は靜かな瞑想の姿を暗一色の大氣のうちにくつきりと描き出して耳を澄ませば其永遠の息づかひが聞きとられさうに思はれる程間近に迫つて居た。靈鑑寺の南側の土塀に添ふてやゝ登つた畠の中に二階建の家が見出された。それが一燈園であつた。如何にも「學貧學愚の道場」と云ふに相應しい家である。木魚がひゞき讀經の聲が靜かな夕暗に洩れて來た何處ともなし貧しい禪寺の香が漂つて居る。入口が東側の南寄りになつて居るので所謂戸口に迷つて居ると紺の筒袖の行乞服を纏つた青年が暗の阪道を上つて來て「一燈園へお出でになりましたか、よくお出で下さいました」とつゝましやかに合掌して「どうぞこちらへ」と案内して下すつた。謙虚な心の發露と敬虔な態度には打たれずには居られなかつた。思はず頭が下がつた。最初に味つた一燈園の味である。此案内の青年を通して光るお光の輝きでもあらうか。心のうちに幾度となく合掌を返して後に從いて行つた光の間に招ぜられた。來訪簿に記名を終つて訪問の意味を傳へる。「一宿兩餐の方は喜んでお迎へしますから御不自由を御しのび下さいますなら、どうぞ御泊りなすつて下さい」と默禮して立ち去つて了ふ。園を訪ふものは誰であらうと凡て道友として迎へられるのである。唯當番に通じさへすればいゝのである。「御夕飯はお濟ませになりましたか、未だでしたら貧しいものですがどうぞ御遠慮なく召し上つて下さいまし」別の人がいつてくれたが生憎濟ませて來たので殘念ながら辭退する。とばりが寛やかに絞られた祭壇と六疊二間と四疊半を明け放した文字通りガランとした大部屋が光の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

間である。行つて見れば在家へ引越した寺が急拵へに本堂を作つたと云ふ形だ。大切なのは祈る場所でなくて祈りの心だとしみ〴〵考へさせられて敬虔な心持が甦つて來る。祭壇には「諸宗の眞髓を禮拜して歸一の大願に參ぜん」とするところから天照大皇神も釋迦も基督も一宗一山の宗祖開山から一生を無想無爲の遊戲三昧に送つた桃水和尙も聖フランシスも二宮尊德も中江藤樹も天香師に緣のあつた綱島梁川氏も光に溶け入つた上士上品の先達と云ふ先達は凡て拜することが出來るのだ光の間と稱される所以であらう。

二

光の間には既に十人餘りの青年が集まつて居た。紺の筒袖の行乞服を纏つた人、木綿の絣を着た人、頭髮を分けた人、五分刈の人、それは多種多樣であつた。丸で中學生らしい人達も見出し得た。一日の行乞を終つて歸つて來た人達である靜坐默想に耽つて居る人もあれば行乞(奉仕)の嬉びを他の兄弟達に頒ち合つて居る青年もある新聞を讀んで居る人、知友らいし通信を樂んで居る人、熱意を凝めて信仰を語つて居る人、それは樣々であるが部屋の中は水の流れるやうな靜かさが包んで居た。餘儀なく人の坐の前を過ぎ坐を横ぎらねばならぬ場合は、若い修道士達は合掌して過ぎるか「御免下さいまし」と心からの儀禮を捧げて横ぎる。何んと云ふ心の美しさであらう。さうして何處にか此心の美はしさが自然にたゆたひなく流露して居ることであらう、合掌し儀禮を正し此味ひ深い形を整へずには居られないであらう。心と型とがぴつたり溶け合つて居ると云ふより寧ろ其處では心と型とが心即型と云ふ相即の姿をなして居るのである。御光の遍滿を游泳する魚が水に觸れるやうに凡てに感ぜずには居られない木魚の響が鉦にかはり歎異鈔の一節が御詠歌にかはることがあつても祈願の聲は續いて行つた。時の經つに連れ園は托鉢から歸園して來る人達の數が三人四人と增して來た。歸園した人達は先づ光の間に手をついて「只今歸りました」と歸園の挨拶をする其處に集まつて居る限りの人達が「お歸りなさいまし」と唱和して「御苦勞でした」と心から恤はり一日の行乞に對して感謝のまことを捧げる。お下の女學生らしいあどけない小女もあれば絣のヒッパリを着た田舍の娘さんも居た。河道屋の法布を着た鼈甲緣の眼鏡の青年もあれば正服其儘の中學生もある。ひとかどの住職さんらしい人も念珠を腕にした眞宗の若僧も職人らしい人も守屋さんと云ふ文學士の方も……歸園した人達は先づ二階の病室の道友を見舞つて穴倉のやうな地下室の食堂に降りて行くのである。夕食を濟ませた人達は禪堂に這入つて夕の祈りを捧げる。禪堂は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

玄關脇の一室で曼陀羅と御厨子が安置して、板の間と一段高い疊の敷いた處とが堀割のやうになつて居る簡素な一室である。電燈が唯一つ點ぜられて居る。禪寺の道場を拜むやうな造りだ。さうして其麼心持のする處だ。在園の人達の荷物――裸の身體になりきつて「懺悔の爲めに奉仕し、報恩の爲めに行乞せん」とする人達に荷物とは云へないであらうが――それはバスケツトの一個であつたり手提栖の一つではあるが、それが室の秩序を亂すことなく棚の上に置かれてある。讀書する人達の爲めに窓ぎはに一枚の板が打ちつけて机代りにしてある。園の書齋とも見られるのである。木魚の響や讀經の聲は此人達の夕の祈りであつた。かうして在園して托鉢して居る人達は午後八時までには全部歸園した。今は唯光の間は七十餘名の人達で滿たされて天香師の歸園をひたすらに待つて居るのである。

三

禪堂から洩れて居た祈願の聲が止んだかと思ふと行乞姿のその儘な天香師が姿を見せられた、既に歸園されて禪堂で祈りを捧げて居られたのである。室は水を打つたやうに靜まつた。ながい默禱を祭壇に捧げて「皆さん今晩は……」と輕く挨拶しながら座に就かれるのであつた。頬邊には幼兒のやうに優しく慈父のやうに細やかな慈くしみ深い微笑が漂つて居たがつしりとした骨組、と云ひ心持禿げた五分刈の頭と云ひ紺の行乞服を纏はれた處と云ひ何處から見ても自然のまゝな偉大な野人である。百姓のやうでもあれば坊さんの樣でもある。無技巧で粗野なやうでもあれば女性のやうに非常に纎細でもつたいない程謙虚でもある。ぢいつと凝視られる眼は叡智に澄み洞察の力に輝いて居た。天香師と呼ぶよりも天香さんと呼ぶ方が何麼に相應はしい響きを持つか知れない程親しみ深い人である。秘密でも何麼悩みでも此人だけには心置きなく打ち明けることも出來れば聞いて頂けるやうにも思はれる。そして打てば響くと云ふきび〳〵しさが滿ちあふれてゐる、坐談をされる場合は豐なユーモアーで巧に笑ひ殺される。集まつて居る限りの人達は靜かな靈の言葉微笑を返して「御歸りなさいまし」と云ふ挨拶にかへた。言葉と云ふ言葉や合掌し頭を下げると云ふ儀禮や其麼信賴の情の示顯もこの微笑に比ぶれば如何に靈から遙かに隔てられ虚禮に墮すかと云ふことを、靈にめざめお光に惠まれた之等の人達は微妙におのづから感じて居るのであらう。此場合微笑が儀禮を壓してより崇高な儀禮の形造り誰の微笑にも慈父に接したやうなやすらかさと喜びが輝いて居た。室のなかは靈と靈の觸れ合ふ完全な和やかさに溶けて行つた。無限の愛情を罩めて一人一人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

に慈父のやうに優しい凝視を注いで「毎日御苦勞です。あなたの御病人は如何です？」と問ふて快方に赴かれましたと聞いては「有難いことです」と自分のことのやうに頭を下げられ一人一人の顔を覺えて居て其人其人にぴつたりと合つた言葉と質問を次から次へと續けられる「行乞の味は何麼ですとか」「久しくお合ひしませんでした。おたつしやで結構です」とか「あなたのお仕事はお辛いと思ひますから他の人達に代つて行つてお貰ひなさい」と恤り慈しみ勞を謝し懇に慰め愛想の限りを捧げて行かれるのであつた。新顏の人に行き當られると「あなたは……」と優しく問ひ掛けて「今日の御用件は」と用件を聞き入園させて貰ひたいと答へると「後で御心持を聞かせて頂きます」とて七十餘人全部に言葉を交して行かれた。其れが終ると新しく入園する人達との間に入園問答がかはされるのであつた。

四

入園問答は先づ制服を着た中學生から始められた。

「お國はどちらですか」

「熊本縣」

「御職業は？」

「中學生です」

「こちらへゐらつしやるに就いてお手紙を頂きましたか」

「出しませんです」

「そりや少々困りましたね……お父さんやお母さんのお許を得て來ましたか」

「無斷で來ました」

天香師の面持には暫し當惑の色が浮んだが太陽の溫光のやうに無限に注がれて居た。微笑は一層此若い道友を慈しむやうに柔和の光を增した。

「此處へお出でになりました動機は」

「懺悔の生活を讀んでからです。それ以前に同村の人が入園されて居ましたので豫て話を聞いて居たからです」

「此處へお出でにならなければならない程、お行詰りになりましたか。あなたの御生活が……」

青年は急處を突かれて永い沈默を續けたが

「學校には試驗があります。試驗は競爭です。他の人と爭はなければなりません。爭ひは如何なる場合に於ても不合理で罪惡があります。其處で私は此競爭に堪へられなくて參つたのであります」

心に合掌を繰返して居られるやうな眞摯な態度で青年の一語をも聞き洩すまいとして居られた天香師は深い瞑想の末

「學校はお止しになりましたか」

「未だ退學屆は出して居ません」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

「一燈園の生活が面白さうだから一つ行つて見やうかと云ふのではありませんか」

青年は鋭い洞察に打たれて頸垂れて了つた。

「危ないと思ひますな……、學校はお續けなるやうにおすゝめしますお恥かしい話ですがかうして居る私が隨分危ないのですからな、其れに御覧の通り園は一杯で、一つの寢所に二人も三人も寢なければならない始末ですから……これが夏ですと其れでもいゝのですが寒い時はさうも參りませんし、惡い風邪が流行して居るものですから他の人に風邪をひかしても濟まない譯ですし、あなたよりも先に手紙で申越んで來て居る人が多數あるのですが皆譯を話して待つて居て頂いて居るのですから其人達に對しても濟まない譯ですから惡しからずお許し下さい、折角居らしやつたのですからお好きなだけ居て此處の生活を充分味つてお歸り下さい、若し次に入園して下さる時は前以てお手紙を下さいますやうにお願ひします、突然來られますと止むを得ずお斷りしなければならない事がありますから」

中學生の問答は終りを告げて大阪の商店に勤めて居ると云ふ店員に問答は向けられた。入園を希望するのでなくて「懺悔の生活」に書かれてあるお光とは何麼ものであるか、お光の本體が知り度い爲めに來たのだと云ふ

「此處は思索や、哲學的攻究に依つてお光の本體を研究する處でありませんので説明申し上げることは出來ませんもと〳〵お光は頭の中で練つて出來上つたものではなく働いて居る時身體を動かせて居る時現はれるので、今までの生活をかへて無一物になりきつて働いて居る時に見へるのです。お光とは、何麼ものだらうと考へて居られる間は決してお光が拜めるものではありません。考へて居られる間は生活が未だ變つて居ません。生活をかへなければ見られぬものであります。頭を使はないで動いて働いて居る時さうしてお光を見やうとしない時おのづからお光に觸れられるものです。御研究心のお在りなさることは有難いと存じます。お差支がなかつたらお泊り下すつて道友の生活を見て歸つて下さい。あなたさへ御辛抱下さいますならちつとも差支ませぬから」

次いで問答は「私が以前の生活に堪へて行けますなら死んだ方が増しです」と火のやうな情熱を燃やして居る青年の上に移つた。

五

情熱の青年は兵庫縣の醬油の名産地から來て居るのであつた。父も兄も醬油の釀造に當つて居るのであるが、獨立

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

心の強い青年は二十歳の時から文具商を始めて三年間奮闘した結果得た處のものは「自分の生活は他人に迷惑を掛ける」と云ふ一言に過ぎなかつたと云ふのである。「土地の習慣に從つて貸賣りをしなければなりません。思ふやうに拂つて頂けません。拂つて頂けません故に卸屋や問屋の方に拂ふことが出來ません。他人から迷惑を掛けられることは堪へて行きます。けれども他人に迷惑を掛けねばならぬこと云ふことは堪へられませぬ」青年は明晰な語調を織出すやうに續けて行つた「他人に迷惑を掛けなければ生きて行く事の出來ぬ生活には何處かに過りがあるか不合理が無ければならない」かうした煩悶を續けて居る時懺悔の生活を讀んで一層此感じを深め、同時に一切の解決を得たと云ふのである。光明祈願の前には何の躊躇も何麼逡巡も自分に許さなんだと云ふのである。容易に肯じなかつた父も自分の眞實に動かされて遂に許して呉れたので來たのだと云ふ。

聞き終つてから天香師は

「折角一人前に育て・やつたのに乞食のやうな者に成り下つて了つてとお父さんやお母さんがあなたを不孝者だと云つたら如何します?」

「恩を忘れやうとするのではありません自分が落ちつけませんでは恩の返しやうもございません」

「それでも不孝者だと云つたら如何します?」

「私が救はれます迄は目をつむつて捨てるより他ありません」

「此麼生活に這入つて若し病氣でもしたら如何します、以前の生活であれば御兩親に保護もして貰へますし御醫者にもかゝれますし藥も服むことが出來ますが誰も保護はして呉れずお醫者にもかゝれず藥も服む事が出來ずに死んで行かなければならないとしたら如何します?」

「神樣や佛樣にお任せして居ますから神樣や佛樣はお心にかなふやうにして下さるだらうと存じます、命を召さうとお思ひになれば召して下さいませうし生かせて置いてやらうとお思ひになれば生かして置いて下さるでせうから病氣や死ぬと云ふやうなことは何んとも思つて居ません。」

お光の前に一切を捧げ盡して救ひを得やうとして居るこの青年の純眞さに見入つて居られた天香師の眼には涙の露が宿されて居た

「此處へお出でになりましてからは何日になりました」

「二日目です」

「何處かへ奉仕なさいましたか」

「著いた翌日でした、當番の方に奉仕させて下さいと申し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ましたらあなたはお出でになつたばかりですから、まあ二三日休んでからになすつて下さいと申されましたが、皆さんのお出掛けになるお姿を見ては殘つてぶらぶらして居るのは濟まないやうな氣になりました、讀書して居ても落ちつきません、其處でお晝御飯を頂いてから此處を下つて行きました、下の道へ出た時自轉車で馳つて來た人が如何したはづみか溝の中へ倒れました紙包がとけて畠の中へ節分の白豆が澪れ落ちて居ました、思はず傍へ馳け寄つて拾つて上げました、拾つて上げると云ふので無くて拾はずには居られませんでした、概まし拾つた時其人は御禮を云つて後はあなたに上げますと云ひました、これ迄此時程嬉しいと思つたことはございませんでした」

「其人は幾つ位の人でした」

「廿七八だと思ひます、紺の羅紗の筒袖を著て居ました。

「それから如何しました」

「暫く行きますとお婆さんが孫を背負つて畠を打つて居ました、鍬を借りてお手傳ひして夕方其家へ送つて上げましたお婆さんは喜こんでくれました」

「其家は何處らで何んと云ふ家でした」

「宮さん（岡崎神社）の前少し行つた煙草屋の横を這入つた服部とか云ふ家でした」

「畠を耕して居る時どんな氣がしました」

「働いても働いても働き足らぬやうな氣がしました、歸り途は非常に愉快でした」

「お父さんに言つて蒲團を送つて貰ふやうにして下さい、若し荷物がありましたら皆送り返してね」

青年は入園を許されたのである續いて問答は曹洞宗の雛僧に移つた。（つゞく）

返照錄

○長山茂兄（上海）拜啓朝七時起床自宅の托鉢も終り朝食に店の若い店友二人と貴著を廻讀しつゝ八時を過ぎました、今朝も先生に對して感謝の御禮を御光に捧げます、私共も先生の精神が私の信仰のあの光と同じ樣に感じますので幾分分る樣な氣持にて讀んでおります。私は歸港後我々の同行に對して「信不足行不足」と申そうとしましたがそれよりも先きに私自身そこの境迄持つて行きたいと思ふ念願より住宅を名けて長和寮と申し京都の一燈園を理想して居ます。非常に僭越な試でありますがどうか私の念願として御光の御許しある範圍で凡てを御任せしてやつて行きたいと思ふのみであります。寮の精神は海外ではあり植民地風でもありますから若い友人を思ひます。旅人を懇ろに待遇せともあるそうです上海に於ける遊人の無料宿泊所となし職業を與へ無く てならぬ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ものは授けられる働いて食へぬものには私共の食を割いて上げたい、それは私共のものでないからです、こんな考へでこの寮を開放して行くつもりなのです、何うぞ見習のHさんは私一人に「懺悔の生活」を讀みつゞけさしてHさんは勉强されないのです一人で店へ行つて終ひました八時半です。私も吃驚してパンを焼き初めました、そしてやきつゝ此感謝の通信を認めております、明後日は敎會の祈禱會をこの家でやるそうで委員の人が參りましたのでよろしければさて承諾いたしました、先々の日曜日に轉宅しましたから恰度九日目でありますが朝八九時に出かけ夜は十一時頃に歸りますのでまた三四人の友人が不在宅に參りましたのと毎夜電報配達に戸をたゝかれる位であります、訪るゝ友よ！鈴を押せさらば開かれんとかきませうか？御光が幸に私にも滿ちて至る所にて新聞も日誌もつける暇無し朝より十一時迄位の勞働に疲れを覺えません、上海にも夜猫子(梟の事)が澤山おるので梟征伐をやろうと思つております、梟の話をかき出しましたらHさんが御光を持つて來てこゝにもありますと申しました、そうですか後で拜見しませうと申しましたが折角の御光誌もまだ拜見出來ません。長崎の得意先高島さんより東海道汽車中より御葉書を頂きましたとて悅んで申して參りました、長和寮を作つたと申しましたら私共もさてその住宅を燃火寮(?・)とか名けて私共の樣な事をやりたいとの事です、愉快です、青年會の主事は私の後見になつて吳れます、私も理事などゝ云ふ事にされて居ますのでモ少し働き度いと云ふ事を申しました、牧師さんは牧師らしい事を申して居まして今月末米國へ向け立たれますので無牧となります、日曜日にこの家へ來ました時上海の一燈園はよ過ぎるなと思ひました、店の人や歸京中の店員が歸りますと賑かになります、まだ生れませんので御產の準備中と云ふ格好です、友人阿二と云ふのが毎日留守して居て吳れます、パンがこげますのでこれにて失禮します、これから私の托鉢ですが店へ參ります。

紅梅笑み暖氣覺え青年の心も時も次第に春に相成り可申候感謝の心を走りがきして申上候貴園共鳴御同人御一同樣へよろしく願上候。御光と共に御健かならん事を祈り申候　拜具（天香さん宛）

○大橋ハナ姉（青森）此の度は御知らせ下さいまして殊に〳〵ありがたく御禮申上候又恐入候へども私は何か用事致します場合でも又休みます時でも其時の氣持になつて致したいと思ふて居りますか私の氣持は二重となつて居りますが如何なるように致しましたなら其の時〳〵の氣持になつてやりうる事出來うるようになりうる者で御座いますかどうぞ恐入候次第で御座いますがどうか御きかせ致したいと思ひて居りますがどうぞ御敎へなすつて下さるように御願ひ申上候。

私は御存じの通り學校にもろく〳〵入學致しません者で御座いますからどうぞ御はんじ御覽なすつて下さいませまだ〳〵御伺ひ致したき事ばかり山々御座いますがどうぞよろしく御願ひ致します

二伸申上候

只今の所は言行丈並人のようでありますが統一力が缺けて氣はみだれて居る人でありますが是れを以前の人にかへす事出來ぬ者でしょうか御知らせなすつて下さいませ。

又善なる活動して居る場合にへだてある場合に其の時には氣持の取方如何なるように致しまして氣の取方致してよろしいので御座いますか御敎へなすそて下さいませ。よろしく御願ひ致します

□餘白雜記　玄光社の藤井兄が協調會から約一ヶ年の豫定で歐米視察の途につかれるにつき、七月十五日夜、東京の同人中心でさゝやかな送別會を玄光社に開いた。會するもの二十有餘。ご馳走さては、もりそば、ひやむぎ、水菓子の二三種にすぎれど、中桐先生のご挨拶に始まつて、社會問題に對する一燈園のいのり、托鉢のかたち、一燈園の組織化、同人の結婚等につき種々意見の交換がつて、散會したのは午前二時すぎであつた。連日の送別會でご馳走攻めにあつてゐる藤井兄は、こんな形をなしてをらぬ催しを反つて喜ばれたのは何より嬉しかつた。△京都一燈園では七月二十五日から八月二十五日までの豫定で、夏期托鉢會を同市寺町通四條下ル高等家政女學校で開いて居るが、目下六七十名からの修行者が全國から見えて居る。天香師のお話も殆んご毎夜きかれる。一燈園からは十人あまりも同人が詰めきりで、托鉢のお世話、炊事等何くれこ一生けん命になさつてゐる。ほんものが産れるやういのります。△鹿ヶ谷は在園者が増える一方で、目下百五十名内外に居ます。…が大勢の方を今の仕組のまゝて…しては、自然粗…ちで、今の慾の世の中には稀有な求道の精神に對して誠に相すまないから、何さかしなければならないさ、天香師はじめ心配しきつてゐる。私もその具體化の一日も早いことを熱禱懇願してやまない。△玄光社の趣旨に共鳴の方は、住所、職業、姓名、生年月を事務所（東京市外戸塚町上戸塚五八〇玄光社）宛に御通知下さい。同人の連絡方法は追つて申上げます。又これにつき高教を垂れたまふ方あらば、ほんさうにありがたい。一方に深い〳〵いのりをこめるさ共に、他の一方に組織的團體的のムーヴメントが今は必要になつて來たさ信ずべき理由がある。△本誌も此の新秋から新聞紙法の取扱を受けて掲載事項の制限から脫し、內容をモツト〳〵すぐれたものにして行きたいさ思つてゐる。△同人田中太一兄西田透石兄（天香師次男）がそれ〴〵七月二十三日二十九日に示寂された。死なれるさやつぱりイヤだ。△本誌の編輯は日下玄光社で主さして松下が當らせて貰つてゐますから、寄稿をたまはる節は、直接、玄光社內松下宛に御郵送願ひたい。△申し遲れましたが七月號の題字は、六月號の題字が、あまり…す…ゐたので、やり直したのでした。△本月號のは遣唐大使中納言從三位兼行左大辨春大夫式部大輔侍從菅原朝臣道眞公の筆、長谷寺緣起文（寬平八年二月十日）中より戴かして貰ひました。△こんご事務の都合上、東京及びその附近一圓の愛讀者への配本は、玄光社で取扱ふことになりましたから右御諒承願ひたい。新たに御購讀くださる方も、東京お近くならば、直接玄光社へ御申込みあれ、ごうぞ（きちえ）

*　*　*　*

大正十一年八月十四日印刷（代金二十錢）
大正十一年八月十五日發行（郵送料不要）
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
編輯兼發行兼印刷人　中桐確太郎
印刷所　株式會社一匡印刷所
東京市牛込區原町三丁目五十三番地
發行所　東京宣光社
京都市柳ノ馬場三條下ル
取次所　宣光社
振替大阪五五九八三九番
東京市外戸塚町上戸塚五八〇
取次所　玄光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

京都東寺濟世病院長 小林參三郎著

生命の神秘

四六版三百二十頁
着色版一葉
凸版十數葉
英國特製布表紙
定價金貳圓
送料金拾四錢

不治の難症に悩む者此新福音に聽け。科學を偏重して人間本具の生存力を無視せる現代醫學の缺陷を剔抉し、故岡田先生の遺業靜座法を醫術に應用して、幾多の患者を救濟せし新研究也。

▼本書の著者は永く英米獨にありて科學的醫術の蘊奥を極めたる人、嘗て自ら不治の難患に苦める時、一僧侶の法話を聽いて豁然大悟する所あり、幸にも偶々九死に一生を得て、生存力の秘密を躬自ら體驗し、玆に主客圓融、科學と宗教との合致したる醫界 Epoch-making の療法を發見したり。後年故岡田先生につき靜座法を修得して益々所信を確かめ不治を宣せられし患者を再起せしめたる事數千人に及ぶ。而して衆望の歸する所、眞言宗東寺派の濟世病院に推されて長たる事十年也。

▼心身に憂ひ悩みある者、將に大手術を受けんとする者、不治の宣告を受けて生存の意義を見失へる者、速に本書を一讀せよ。生存力と醫術とを合致せしめ、靜座を基礎としたる新療法によりて、幾多不起の患者を全癒せしめし實驗談とその方法とは、極めて平明に解説さる。

目次

總論、本論、(一)神經衰弱症 (二)暗示暗示感覺自家暗示 (三)婦人科病、(四)慢性胃病、(五)心臟病、(六)思ひより身體に起る病、(七)肺結核、(八)近親者の看護は結果惡し、(九)腸の慢性疾患、(十)喘息、(十一)慢性腎臟病、(十二)蓄膿症、(十三)子宮筋腫、(十四)脱腸、(十五)泌尿症、(十六)子宮脱、(十七)痔瘻、結論、靜座法、

圖書目錄進呈
東京神田表神保町
春秋社
振替東京二四八六一
電話神田二二一三八

大正十年八月五日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）大正十一年八月十四日印刷納本 大正十一年八月十五日發行 『光』第十四號

橋井孝三郎著（最新刊）

仰臥五年奇蹟に生く

上製本綴美本

定價金貳圓參拾錢

送料金拾六錢

□□獄中記病牀錄信仰篇□□

維れ、命旦夕に迫れる著者が血涙を以て綴りし一個高貴なる人間記録也。暗慘たる牢獄生活と不治の病を通じて宗教に入れる魂の過程の表示也。嗚呼此の極度の忍苦、不壊の信仰、正に現世のヨブ記の稱に値せずや。

▽前年豚箱事件として天下の耳目を聳動せしめし京都府市の疑獄は、なほ世人の記憶に新なるものあらん。著者は少壯政治家として頗る前途を嘱目せられし人、偶々政敵の嫉視を受けて此の疑獄に連座し罪なうして縲紲の辱を受くる事再度、止んぬる哉、獄中に於て悪性の肺結核に襲はる、所となりぬ。幸に法は著者の身の青天白日を證したりしも、病は遂に癒えず、廢人として仰臥する事滿五年！

▽既に喀くべき血、痩すべき肉なく、枯木の如き殘骸なれども、肚裏一片の赤心抑ふべからず、病苦を忍んで此の一書をなす。戰慄すべき獄中の見聞記、同情の涙を絞る病牀の感想、法悦に溢ふる信仰生活の告白——之を點綴するに痛烈なる社會批評あり、裁判横否定の辯あり、慇懃なる妻子への遺訓あり、慘話、哀話、悲話、歡話頁を繰り、章を追ふに隨つて展開す。最近出版界に異彩を放つべき一書として敢て大方の批評を乞ふ。

圖書目錄進呈

東京神田表神保町

春秋社

振替東京二四八六一

電話神田二一三八